

歯学部ニュース

令和4年度第1号（通算141号）

特集 入学を祝して
入学者のことば
創意工夫で越コロナ

目 次

特集1 入学を祝して	1
歯学部長 前田 健康・副病院長 多部田康一	
入学者のことば	4
歯学科1年 岩上 尚暉	
歯学科1年 長島 大貴	
歯学科編入2年 坂井 幸介	
口腔生命福祉学科1年 山内 丈音	
口腔生命福祉学科1年 片岡 綾音	
口腔生命福祉学科編入3年 千葉 榛夏	
摂食嚥下リハビリテーション学分野 大学院1年 出羽 希	
う蝕学分野 大学院1年 齋藤 瑠郁	
口腔生命福祉学専攻博士前期課程1年 小林 彩加	
口腔生命福祉学専攻博士後期課程1年 宮澤帆乃花	
入学おめでとう 入学者名簿	11
令和4年度 歯学部歯学科	
令和4年度 歯学部口腔生命福祉学科	
令和4年度 歯学部歯学科 2年次編入生	
令和4年度 歯学部口腔生命福祉学科 3年次編入生	
令和4年度 大学院医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻（博士課程）	
令和4年度 大学院医歯学総合研究科 口腔生命福祉学専攻（博士前期課程）	
令和4年度 大学院医歯学総合研究科 口腔生命福祉学専攻（博士後期課程）	
特集2 歯学部生の活動	13
創意工夫で越コロナ 歯学科2年 真田 翼／歯学科2年 玉舎 祥／歯学科3年 溝口宗一郎	
歯学科3年 塩谷 慶太／歯学科4年 栗田 大地／歯学科4年 廣 理芽／歯学科5年 坂上 莉奈	
歯学科6年 加藤 音々／歯学科6年 遠藤 愛／口腔生命福祉学科2年 並木 真菜	
口腔生命福祉学科3年 長谷川葉奈／口腔生命福祉学科4年 篠原 凪緒	
令和3年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名	
令和4年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期・博士後期課程修了者論文名	
総務委員会だより	28
前田 健康	
部活動紹介	30
弓道部 稲田 衡一・スキー部 歯学科5年 林 幸穂	
研修医プログラムを修了して	32
Aコース臨床研修歯科医 関山 裕・プログラムB研修歯科医 荒井 裕貴	
大学院へ行こう	34
田村 浩平・沢田 詠見・野村 隆之	
学会受賞報告	37
栗原加奈子・長崎 司・葭原 明弘・笹 杏奈・日吉 巧	
大川 純平・中村 由紀・村上 和裕・高岡由梨那・板 離子	
診療室・分野紹介	45
硬組織形態学分野・教授 大島 勇人	
素顔拝見	48
落合 勇人・中島麻由佳・佐藤 拓実・隅田 賢正・高村 真貴・皆川久美子・佐藤 圭祐	
論文紹介	54
微生物感染症学分野 土門 久哲	
女性研究者開花プラン報告	56
吉羽 永子・依田 浩子・山田友里恵	
歯学部教育におけるデジタルデンティストリーの導入について	59
包括歯科補綴学分野 教授 小野 高裕	
リニューアル・オープンした医歯学図書館へ行こう	60
医歯学図書館長・口腔病理学分野 教授 田沼 順一	
新潟歯学会報告	63
令和4年度新潟歯学会集会幹事 小児歯科障がい者歯科 大島 邦子	
同窓会だより	64
有松美紀子・佐藤（松山）順子・野内 昭宏・岡本 基岐・高橋 希	
教職員異動	70
令和4年度歯学部内委員会	74
歯学部各種委員会	77
ミニコラム 歯学部を支える方々	78
鈴木 香織・池田 恵美	
編集後記	80



入学を祝して

歯学部長 前 田 健 康

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新潟大学歯学部に入學された皆さんに、新潟大学歯学部の教職員を代表して、心からお祝いと歓迎の意を表します。また保護者ならびにご家族の皆様にも心からお慶び申し上げます。皆さま方のご期待にそえるべく、新潟大学歯学部で新入生の皆さんの能力をさらに大きく伸ばすことができるよう、私たち教職員も全力を尽くしたいと思います。

新潟大学歯学部の教育目標は、「包括的医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材および保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成」であり、「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。皆さんがこれから大学で学ぶ講義、実習の内容は社会に出るときのスタートラインに立つための内容でしかありませんので、人生100年時代といわれる長い人生を過ごすしていくには、日々進歩する学問を常に修得する必要があります。そのためには自ら学んでいくという態度が不可欠です。また、医療・福祉を目指す者は、問題を発見し、自ら学習し、問題を解決していかねばなりません。

大学を表すひとつの言葉に「知の森」があります。皆さんが新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が終息しない中、熾烈な競争を勝ち抜き、入学した大学は、大きく広い「知の森」です。この「知の森」は人々の長い歴史の中で育まれ大きく育った木々、そして今やっと芽吹き始めた小さな木々もあります。「知の森」は皆さんが想像している以上に、多種多様な木々が生い茂っています。この宝の山ともいえる「知の森」を利用しない手はありません。これまで皆さんが

受けてきた教育はいわば受け身の教育でした。教師から与えられた教材をひたすら暗記・学習し、試験に臨みました。しかし、試験の前に丸暗記した事柄は試験が終われば忘却の彼方であったという経験をしたことが皆さんあることでしょう。皆さんが選んだ歯学部という学部は職業資格を得るための学問を学ぶという面を持っています。いわずもがな、歯学部は歯科医療人、口腔保健・福祉医療人を育てる場です。皆さんの希望を叶え、夢を実現するためには、自ら学び続けるという姿勢・態度が重要です。赤ちゃんがお母さんから食べ物进行う、いわゆるspoon feedingから、自ら食材を見つけ、調理していくself-cookingに転換していかなければなりません。「知の森」である大学にはさまざまな素材が豊富に、また至る所に転がっています。この知の森を自ら探検して、自由に歩き回って欲しいと思います。

COVID-19の拡大が始まった当初は、教育活動も含め、日常生活にも大幅な制限が加えられていました。私ども歯学部でも、オンライン講義等による非対面型講義が実施され、実習・演習の開始時期が延期となるとともに、数々の行事が中止となりました。私ども教職員は通常と同じ教育効果をあげるべく努力してきましたが、教員の力だけで今まで以上の教育効果をあげることができたかは、はなはだ疑問です。「わざわざ大学に行かなくても、本やネットでも学べる」という意見も散見されます。しかし、大学に行くことは専門的な知識を学修するだけではありません。大学は講義を聴くだけでなく、実験やフィールドワークなどを交えて専門的な学修ができるという学びを提供する場です。学問だけでなくさまざまな経験が積める場でもあります。今は中断されていますが短

期海外留学、クラブ活動やボランティア活動は協調性や人間力を向上させ、また友人をつくる機会を与えてくれるでしょう。さまざまな経験は新しい出会い、発見をもたらし、視野を広げてくれます。大学で直接学ぶ意義をあげようとすればきりがありません。

このコロナ禍の中、歯学部専門科目では、教職員はもとより、学生の高い自覚により、いち早く対面型講義、実習を再開し、新学期からもこの方針を貫いています。コロナ禍での大学教育は学生諸君の良識ある行動によって支えられています。制限のある時期ですが、勉強だけでなく、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、教養のある社会人となるよう人間性を磨いてほしいと思います。

新潟大学歯学部は早くから教育改善を進め、全国歯科大学・歯学部の教育モデルケースとなっています。特に患者様を相手にした臨床実習は実践的な技能教育として高い評価を受け、臨床教育のフロンランナーとしての地位を得ています。さらに、大学院教育でも政府補助金に裏付けられた

教育改善を進め、学部レベルから大学院レベルまで、高い教育の質を担保し続けています。研究面の評価の一つとして科学研究費助成金の採択があげられますが、この助成金の採択率も非常に高く、本学ではトップに位置しており、研究能力の高い教員が君たちの学習支援にあたります。また歯学部校舎改修に伴い、新たな実習設備が導入・整備され、学生諸君の技能教育に活用されています。各種教材の整備・充実にも努めており、高い学習効果をあげるため、環境整備にも努めています。これらの素晴らしい教育環境を積極的に活用し、自分の能力をさらに高めるよう努力して下さい。

新しい生活様式の下、これらの活動は現時点ではこれまでのようにできないかもしれません。簡単ではないからこそ、皆さんの柔軟な発想が求められ、アイデアが活かされる貴重な経験となります。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を過ごし、卒業時に今年度新入生および保護者の皆様全員で喜びを分かち合いたいと思っています。





入学を祝して

医歯学総合病院副病院長（歯科総括） 多部田 康 一

新潟大学歯学部歯学科・口腔生命福祉学科の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。世界史に記録される新型コロナウイルス感染症の世界史的蔓延、不自由を強いられる環境のなかで高校生活の大半を過ごし、皆さんは本学歯学部合格されました。この困難な状況に屈せず、入試という目の前の関門を突破したことは大きな自信となることでしょう。これから皆さんが新潟大学で十分に学び、社会で活躍していくことを疑いません。

皆さんはこれから歯学部において、歯科医学、口腔保健医療・福祉を学び、将来、専門的職業人やその指導者、教育研究者などとして社会に貢献することが期待される人材です。そのための土台作りから、卒業と同時にライセンスを持つプロフェッショナルに成長するまで、決められた年限内での知識・技術・態度における膨大な学びが必要です。皆さんが効果的に学習できるようにカリキュラムが組まれ、年度ごとの単位を取得することで、プロフェッショナルとなるための準備を整えてゆきます。焦る必要はありませんが、卒業まで着実に学び続けることが必要です。

卒業が近くなると、より実学的な学習である病院実習の時間が増えます。新潟大学医歯学総合病院は医歯学生と研修医師の実践的な学びの場であると同時に特定機能病院として地域の中核医療や高度医療を担う基幹病院でもあります。現在の新潟大学医歯学総合病院歯科の前身である新潟大学歯学部附属病院は1967年に開院され、過去55年にわたり全国で活躍する数多くの歯科医師を輩出してきました。本学、本院では教員指導のもとで学生が患者さんの治療を実際に担当する「診療参加・実践型」の歯科医師養成システムを長く守り続け、発展をさせてきました。これは教員の努力

に加えて、新潟大学歯学部の学生が医療人としてプロフェッショナルとなる自覚と高い志をもって、入学時から熱心に学んだうえで臨床実習に臨んだこと、そして実際に臨床実習において学生が患者さんに良質な医療を提供し続け地域の方々の信頼を得ることにより支えられるものです。皆さんも新潟大学歯学部同窓生の一員となりました。是非、この素晴らしい環境で存分に学び、皆さんの後輩に引き継いでください。また、皆さんは患者さんの診療に携わらない今の時点でも、将来医療従事者となる学生として社会に関わっています。日常生活においても責任ある行動が求められていることも忘れないでください。

新潟大学医歯学総合病院の理念は「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」です。歯科医療の特性から診療技術を高める重要性は当然のことですが、それのみでは質の高い医療を提供することはできません。高水準の医学的に妥当な医療は、適切なコミュニケーションが介在することによって初めて、患者さんの満足する質の高い医療として提供されます。そして人間性豊かな医療人となることに求められる道徳性や人間性は、授業で学ぶことだけでなく、皆さんの日常生活や行動を通して知ること、感じることで形成されてゆくものです。クラブ活動やボランティア、アルバイトなどの方法は様々ですが、社会と関わる機会を是非とも大切にしてください。

皆さんの経験すべてが学びであり、大学での学習を重んじながらも、色々なことにチャレンジし、楽しみながら充実した学生生活を送ること、そして無事に卒業を迎えてプロフェッショナルとして社会に羽ばたき活躍することを願っております。

入 学 者 の こ と ば

入学者の言葉

歯学科1年 岩 上 尚 暉



早い。非常に速い。早くも入学してから3カ月以上も経ってしまいました。楽しい時間というものはあっという間に過ぎてしまうもので、もうそんなに経ったのかと驚いています。今頃

はもう皆さん、夏休みの計画を立てたり、デンタルの練習で忙しい頃でしょうか。

さて、私の自己紹介を忘れていましたのでしておきましょう。冒頭に名前は書いてあると思うので必要はないですが、岩上尚暉と申します。出身は埼玉で、現在はバスケット部とゴルフ部に所属しています。

出身が埼玉なので、当然今は一人暮らしなのですが、皆さんは一人暮らしにはもう慣れたのでしょうか。私は、料理や洗濯もしたことがなかったので、いまだにいろいろと苦戦しています。特に一番苦戦しているのは料理です。料理の基本のキの字も知らず、調理方法が原始人レベルなので、切ると焼くという2つの方法のみで3カ月間乗り切ってきました。この前はために余っていたバナナをフライパンで焼いてみましたが、見るも無惨な姿に変化を遂げてしまいました。もこみちは凄いなあと痛感した3カ月でした。

話は変わりますが、皆さんはこの3カ月楽しかったでしょうか。私は非常に楽しかったです。入学当初は、皆緊張していて殺伐とした空気が流れていました。そのため、ここで友達は作れるのだろうかと不安でしたが、話しかけてみると皆意外と気さくですぐに友達ができました。やはり、高校と大学で一番違うなと思ったのは積極的に行動することの大切さです。大学では高校ほど学校

で縛られる時間が多くないため自由に行動する時間ができます。一方で、一緒にいる時間も短いため、積極的に行動しないと関係が作れないのだなと感じました。また、これは人間関係だけではなく、授業への姿勢も同じで、自分から情報を取りにいかないと高校の時ほど一方的に何かを与えられる機会は少ないのだなと感じました。私にとって、この3カ月間は短いようで非常に濃密で学ぶ機会の多いものでした。

今はまだ我武者羅に毎日を過ごしていて、先のことはあまり見えません。しかし、早期臨床実習や先輩とのかかわりの中で、歯科医になるという最終的な目標は前よりももっと明確になった気がします。計画性を持って物事に取り組むことは重要ですが、あまり先のことを考えすぎても先の見えない現代においてかえって行動を邪魔するかもしれません。明日は明日の風が吹くとも言います。今はまず、周りを見渡していろいろなことを経験し吸収していくことが先々で柔軟に動くための糧となるかもしれません。

入学者の言葉

歯学科1年 長 島 大 貴

皆様、初めまして長島大貴です。季節も夏本番に差し掛かり皆様はどうお過ごしでしょうか。私は、大学に入学したら今までやってこなかったことに挑戦しようと考えていました。中学校の時は、水泳部に入部し、部活の時間が楽しみで、毎日部活に明け暮れていました。高校では競技かるた部に入りました。理由は単純です。映画「ちはやふる」にあこがれていたからです。しかし、入部してみると、思っていた以上にかかるたは大変なものだと知りました。まず百人一首の上の句と下の句を覚え、さらには場にあるかるたの札の配置も覚えなければいけませんでした。比較的、暗記

が得意だと思っていた私でもとても大変でした。高校では運動部に入らず、さらに大学受験もありストレスから暴飲暴食をしてしまい普通に太りました。さすがに痩せなければならぬと思い、大学では運動部に入ることをこのころから決めていました。そして、大学に入り私はソフトテニス部と軽音部に入部しました。ソフトテニス部は医歯学合同で人数が多く、さまざまな人がいて楽しいです。軽音部は先輩のギターソロにあこがれてギターを始めました。軽音部も先輩がたくさんいて、全員が明るい感じでとても楽しいです。

ここまでは部活について話しました。これから、リアルな大学生活について書いてみようと思います。まず大学生活が始まってはや三か月が経過しました。授業はほとんどがオンラインです。そのため、学部によっては同じ学部の人とのかかわりがほとんどないという人もいます。幸いにも、歯学部の前期は毎週金曜が対面の授業で、週一でみんなに会うことができます。歯学科男子は仲が良く、一緒にご飯を食べに行くことも多々あります。私はこの前の7月1日で19歳をむかえました。たくさんの人に祝っていただきました。1日から三日連続で、友達から祝ってもらい今までの人生で一番幸せな誕生日を過ごすことができました。最高の同期を持ったので誰も留年せず、この58期は全員で卒業したいと思います。

最後になりますが、受験期に私を支えてくださった高校の先生や仲間、そして両親に対してこの場を借りて感謝申し上げます。またこれから順調にいけば、六年間お世話になる歯学部の先生方、よろしくをお願いします。私たちも全力で学ぶので、熱心な指導、そして授業をよろしくお願いします。

勉強と感謝

歯学科編入2年 坂井 幸介

「次は終点、新潟、新潟。お忘れ物のないよう…」。

うつらうつらとしていた私の耳に車掌のアナウンスの声が届く。新幹線を降り、スーツケースを

転がしターミナルに着きタクシーに乗り込んだ。

入学式前日、4月3日。新居へと向かう車中で私は、私にとって二度目となる大学生活への大きな期待感を抱いていた。

以前の大学では物理学を専攻しており、医者家系でもない。小学生の頃はプロ野球選手、中学・高校生の頃は歌手、大学生の頃は漫画家となることを夢見ていたが、結局何者にもなれず一般企業に就職し社会人として3年を過ごしていた私が、今まで全く縁のなかった歯学部への編入学を志したのは前年の6月であった。

翌4月4日、入学式は生憎の雨天だったが、改めて私は自身が再び大学生になれること、そして高い志を持って学業に励めることに晴々とした気持ちだった。

というのも、これまでは能動的に勉強することはほとんどなく、高校では大学受験のために、大学では単位取得のために勉強を「しなければいけない」、もっと言えば「させられている」と思っていた。しかし社会人となり勉強から離れると、今度は初めて「勉強をしたい」という気持ちに駆られた。だが、仕事に追われる忙しい毎日の中ではなかなか勉強する時間が取れず、そのとき初めて今までの自分が「勉強をさせられていた」のではなく「勉強をさせてもらえる」という恵まれた時間と環境を与えてもらっていたことに気づき、両親への感謝の気持ちを今までにないほど抱くと同時に、それを有効的に活用できなかったことをとても後悔した。

そんなとき偶然、歯科医師の方と知り合い仲良くなった。その方から歯科医師という職業の素晴らしさを教えてもらった。人間が生きていくのに必要不可欠、かつ美味しいものを味わうことで人生を豊かにすることができる「食べる」という行為を、歯や口腔をケアすることによって支えているという社会的意義はもちろんのこと、何より私の心に響いたのは、歯科医師は常に新しい知識や技術を勉強し吸収することが必要で、それを患者を通して地域社会に還元していくことができる、ということである。誰かの役に立てるような勉強こそまさに私のしたかったことだと気づき、私は新潟大学を再受験することを決心した。

本文を執筆している7月頃は中間試験がいくつかあり、授業と勉強に追われている日々が続いている。正直、大変だ。しかし、私にとって新しいこと、今まで知らなかった世界を知ることとはとても面白い。これからどんどん新しいことを学んでいけることへの期待感に満ちている。

普通は、二度も大学に通わせてもらえることなど滅多にないと思う。そんな機会を与えてくれた両親には感謝してもしきれないし、それに応えるべく勉強に励んでいかなければならない。

次第に見慣れてきた新潟の街並みのなかで、大きく息を吸い込んだ。

入学者のことば

口腔生命福祉学科1年 山内 丈音



新潟大学歯学部に入学会ってあっという間に3か月が過ぎようとしています。まだまだ入学してすぐの気持ち抜けきっていないのですが、1年生の4分の1が終わったと考えると正直少し焦りが出はじめています。このスピードで大学生活4年間が過ぎていくと考えると自分は何を大学生活4年間の指針としてゆけば良いのか早く決めたいところではありますが、焦らず大学生活を過ごしていく中で模索したいです。

さて、高校生の時コロナ禍で大学では非対面授業をしていると噂で聞いていましたが、今年もそうなるとは思っていませんでした。「思い描いていた大学生活と違う！」と高校生のとき先輩から聞いていましたがまさにその通り！しかし大学生になれた喜びからZoomでも何でも楽しく感じられるものです。対面授業が拡大すれば、それはそれで面倒になるのだろうか考えると、わがままになったものだと思うばかりです。

さて、高校生の時コロナ禍で大学では非対面授業をしていると噂で聞いていましたが、今年もそうなるとは思っていませんでした。「思い描いていた大学生活と違う！」と高校生のとき先輩から聞いていましたがまさにその通り！しかし大学生になれた喜びからZoomでも何でも楽しく感じられるものです。対面授業が拡大すれば、それはそれで面倒になるのだろうか考えると、わがままになったものだと思うばかりです。

このような世間的には楽しくない(!?)と思われるがちな大学生活ですが、1つ楽しみなことがあります。それは旭町に週1回通学したときに、友人と古町にランチに行くことです。歩けばすぐお

しゃれなカフェが見つかるこの町で、新しいお店に行くことが最近の1番の楽しみです。つい先週も古き良き喫茶店にお邪魔しました。友人とおしゃべりをして、食事、食後のコーヒー、プリンを楽しんだら、あっという間に12時45分!! 急いで午後の授業に向かいました。旭町の雰囲気がとても気に入って、この後4年間大学生活を送れることが本当に楽しみです。

入学したばかりの頃は歯学部仲間とうまくやっていけるのか不安でしたが、口腔生命福祉学科の人はもちろん、歯学科の人もとても暖かく接してくれて、今では歯学部で受ける授業のときに安心感がありとても好きになりました。学年が上がるにつれて試験勉強などについてお互いに助け合ったり、励まし合うことが重要になると思います。19期の同期の仲間となら乗り越えられるだろうと思います。同期を大切に、人間的に成長する4年間にしたいです。大学入学まで支えてくださった方々とこれから大学生活を送る上で関わる方々への感謝と、この学科を受験しようと決意したときの初心を忘れず、謙虚に、素直に、大学でたくさんのことを吸収し、理想に近づけるように精進したいです。

入学者の言葉

口腔生命福祉学科1年 片岡 綾音

わたしが新潟大学に入学会してから約三ヶ月がたちました。大学入試を終えてから今日に至るまでは、あっという間のような気もしますが、とても濃い期間でした。共通テストを終えてから怒濤の日々がスタートしました。まず、共通テストで思っているような得点が出来ず、志望していた学部を諦めてしまうのか、それとも今までの目標を貫き通すのかという大きな選択をしなければなりません。この時期は本当に自分が何をしたいのか、どうしたいのかを考えなければならず、かなり辛い時期でした。どうしようかと考えているうちに全く知らなかった口腔生命福祉学科という選択肢に出会ったのですが、一人暮らしなんてしていけるのかという不安、今まで目標としていた学部と

はかけ離れた勉強内容についていけるのかという不安もあり、本当にここに進学してもよいのかとたくさん悩みました。総合的に考えて口腔生命福祉学科を受験することにしましたが、受験を決めて無事合格をしてからもたくさんの不安は残ったままでした。

合格通知が届いて引っ越しが完了した後、生活はガラッと変わりました。友達もほとんどいない、全く知らない土地で、さらに今までずっと一緒に過ごしてきた家族と離れての生活は経験のないことの連続で、最初は毎日の生活を送るのに精一杯の忙しい日々でした。わたしは親の転勤で何度か転校や引っ越しを繰り返してきました。家が変わるたびに友達や周りの環境が変わることはあったけれど、家族はずっと変わることがなかった唯一の存在で、その存在がいなくなった生活は自分の中でかなり辛い日々でした。この短い期間の生活でも、周りの人たちの協力がたくさんあって今までの生活が成り立っていたことを実感させられました。

今では最初の怒濤の日々は過ぎ去り、少し生活にゆとりが出来てきて新しい友達が増えたり、学校で新しい知識を学んだりしていて、前の自分が抱えていた悩みは必要なかったかなと感じています。口腔生命福祉学科での学習は、毎回新たな発見をすることが出来、興味が深まっていくので、わたしの選択は間違っていなかったなと思います。一人暮らしや初めてのバイトなどを経験して、より広い視野を持つことが出来ています。

わたしは4月からの生活を経て、これからの時代は不明瞭なことが多く、先の見えない生活が続くかも知れないけれど、自分が置かれた状況の中で出来ることを探して、決断して、行動することが大事なんじゃないかと考えるようになりました。どんな状況におかれてもよく考えて選択して、そこで少し大変でも耐えてやれることをやってみることを繰り返すことの大切さに気づくことが出来たこの経験は、これからの将来にもつながっていくと思います。このことを忘れず、これからも充実した日々を過ごしていきたいです。

入学者のことば

口腔生命福祉学科編入3年 千葉 榛 夏

入学して3か月が経ちました。私は今年の3月に宮城県の専門学校を卒業し、歯科衛生士の免許を取得して大学に編入学しました。

私が編入学を考えたのは、摂食・嚥下の講義を受けたことがきっかけで高齢者の口腔ケアに関わる歯科衛生士になりたいと思ったからです。それには対象者の方とうまく関わっていくために高齢者の知識を増やして、その方が抱える身の回りの問題や、心理面に関してのサポートも必要だと感じました。摂食・嚥下を学ぶ前は大学に進むという選択は考えていませんでしたが、この分野に力を入れている学校で尊敬する先生からたくさんのことを学び、そこに関わる歯科衛生士の可能性に気づいて、先生のようにその分野に精通した歯科衛生士を目指しているいろんなことに挑戦していきたいと思いました。そうすることで自分のできることの幅を増やし、高齢者のみならず様々な人に医療と福祉双方の視点からアプローチすることができると思ったので、編入学を決意しました。

宮城から新潟へ親元を離れての一人暮らしに不安を抱えながらのスタートでしたが、一緒に編入学をして福祉を学ぶために新たに同じスタートラインに立った仲間や、クラスみんなはとても親切な人ばかりです。新潟のことをいろいろ教えてくれたり、分からないところをみんなで共有しながら勉強に励んでいます。入学してすぐに福祉に関する講義が始まったり、施設への見学実習に行ったりと、とても学びの多い毎日を送っています。福祉に関する講義は難しいと感じることは確かにありますが、今後増え続ける高齢者に関わる分野には重要な内容なのだと思います。これから自分が口腔ケアを行っていくことを想像し、どんな支援を行っていけるかの可能性を見出していきたいです。また、同時にコミュニケーションを学ぶことで今までとは違った自分になれるのではないかと、とても楽しみにしています。

新潟大学に入学して、新しいと感じたのがPBLです。意見を出し合いながら議論を深めていくことで、考える力が着実に付いていると感じます。また、講義のように聞くだけでなく、議論した中で分からなかったことをグループ学習という形で調べる過程があるので、自分ができるまで納得のいく学習を行うことができ、とても充実しています。

授業は今年度もコロナの影響で、オンラインがメインとなり、他学生との交流の機会はなくなりましたが、オンライン授業で時間のできた分をプラスに考えて、様々な活動に挑戦してみたいと思っています。そこで、いろいろな可能性を模索しながら将来を見据えた活動をしていきたいです。

私は周りの人たちや環境に恵まれ、たくさん支えられてきたので、そのことに感謝しこの貴重なキャンパスライフを楽しみながら、勉学に励んでいきたいです。

大学院に進学して

摂食嚥下リハビリテーション学分野 大学院1年
出 羽 希



今年度より、新潟大学大学院医歯学総合研究科の摂食嚥下リハビリテーション学分野に入学致しました、出羽希です。この度、大学院入学者として歯学部ニュースへの執筆の機会をいただきましたので、寄稿させていただきます。

私は根っからのおじいちゃん子だったこともあり、入学時より高齢者歯科に興味を持っていました。入学してからそれは変わらず、日本の高齢化問題の深刻さをより深く感じ、高齢者歯科に携わりたいという思いは強くなりました。私は大学

院に進学するならば、摂リハか義歯科かだろうと早くから考えていましたが、考えを絞ったはいいいものの、そこから先の選択に本当に悩みました。先生方、大学院の先輩方から様々お話、意見をいただき、大学一年からAコースの研修期間まで7年間かけ、ようやく摂食嚥下リハビリテーション学分野への進学を決めました。様々考えましたが、訪問歯科を中心とした歯科治療に携わる中で、患者さんや家族の関心事の中に「果たして食事ができるのか」ということが一つ大きなものとして挙げられると思います。この疑問に対し、自分自身が自信を持って答えを出せるようになりたいという思いが当分野への進学を決めた一番の理由でした。

大学院に進学して3ヶ月が過ぎました。臨床実習や、臨床研修で学んだこと、経験したこととまるっきり違う世界に驚き、戸惑いながら臨床の日々を過ごしています。摂食嚥下障害は様々な疾患を背景に生じることから、患者さんを取り巻く様々な職種のスタッフとの連携が必要です。歯科医師の視点では考えもつかないようなアイデアを提案してくださる事もあり、そんな方法があったのかと感動する事もしばしばです。また、リハビリテーションですから患者さんの協力は必要不可欠です。患者さんのキャラクターは頑固な方や、大人しく心配性な方、楽天的な方まで様々ですが、それら患者さんの個性に合わせ時に優しく寄り添い、時に厳しく毅然と接する対応力が求められますが、駆け出しの私には難しく、もっとこう説明できていれば、こう声をかけられたらと反省の日々です。

慣れない生活に苦しみ、疲れる事もありますが、この3ヶ月なんとかやってこられたのは私を決して見放さず熱心に指導下さる先生方のおかげです。最後になりますが、私を暖かく迎えて下さった井上教授をはじめ医局の先生方に感謝申し上げます。

入学者のことば

う蝕学分野 大学院1年 齋藤 瑠 郁



8年も新潟大学にいますと、執筆の機会も増えていきます。3回目の今回は、大学院進学までの経緯を含めてお話しします。

長めに振り返って学生時代、座学や模型実習だけでは、歯科医師は人というより歯が相手の仕事のよう、と思えて将来を悩んだ時期がありました。そんな私も、臨床実習、臨床研修を通して、どう考えても歯科医師は人相手の仕事、と十分に実感しています。臨床研修の前半は新潟労災病院口腔外科にて多職種連携の中で診療し、後半は歯の診療科にてマイクロスコープ特訓の毎日でした。これらの研修先は、研修内容というより、誰に学ぶかで選びましたが、結果、素晴らしい先生方のもとで幅広く挑戦できました。非常に濃い時間でした。

研修中、迷惑ばかりの私にも、是非うちへ、と熱心に誘ってくださる先生方がいました。その熱に押されて進学を選んだ、と言ってもいいくらい熱いお誘いでしたが、当然、それだけで決断したわけではなく、臨床の時間は？生活は？研究は大変？…と、あれこれ悩みました。最終的には、研究や教育への興味に加え、正しい知識と技術を身に付けたい、誘い文句だった“齋藤の可能性”を私も信じてみたいと思い、進学を決めました。

費用面の不安は大学の支援制度で解決できた一方で、臨床から多少なり離れることは今でも気がかりです。とはいえ、病院での診療、学生実習のTA、出張などで、臨床に関わり続けられています。上達を願い、学生や研修医に交じって実習室を借りることもあります。

研究では、微生物感染症学分野に所属しています。免疫学や薬学関連の研究に取り組み、新しいことばかりの毎日を楽しんでいます。失敗に落胆することもあり、つい先日は、初心者にありがちという失敗があり反省したところです。ただ、自

慢にはならない「初心者」の肩書には、何でも吸収し、失敗からより多くを学べる、という良い点があると思います。次へのアドバイスを生かすチャンスが私にはいくらかもあります。う蝕学分野でよく言われる、「臨床のための研究」を、は私の目標でもあります。その実現に向けて、様々なことを習得できるよう精進します。先生方、今後ともご指導よろしくお願い致します。

入学から3か月が経ち、今後の大学院生活をいかに濃い時間にするか、考えています。ご指導くださる先生方、良いプレッシャーをくれる同期、応援してくれる友人や家族、すべての人に恥じぬよう努力し、成長する4年間にしたいと思います。

入学者のことば

口腔生命福祉学専攻博士前期課程1年

小林 彩 加

この度、口腔生命福祉学専攻博士前期課程に入学いたしました小林彩加です。私は、今年の3月に口腔生命福祉学科を15期生で卒業しました。まさか自分が大学院に行きながら歯科衛生士として働くことを選ぶことになるとは、大学入学当時の自分からしたら全く想像できません。働きながら大学院へ通うことなんて自分にできるのか、不安を抱えて入学しましたが、現在では充実した毎日を過ごしています。進学を快くサポートしてくれた家族をはじめ、遠く離れていても切磋琢磨しあえる学部時代の同期たち、引き続き親身になって教えて下さる口腔生命福祉学科の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

私は現在、大学院へ通いながら新潟大学医歯学総合病院で歯科衛生士として働いています。頭頸部癌の既往がある患者さんであったり、インプラントが入っている患者さんであったりと、これまでに自分が処置をした経験がない症例ばかりで戸惑う毎日です。また、学部生時代は、先生の指示通りに動くことを最優先で考えていましたが、現在の臨床の現場では患者さんひとりひとりに合わせて対応しなければならず、自分で考えて行動す

る積極性が求められるようになりました。知識・技術的な面でも、態度的な面でも未だに至らぬ点ばかりですが、入職してから初めてメンテナンスをやらせていただいた患者さんに「すっきりしました、ありがとう」と言われたときは報われた気持ちになりました。それと同時に、毎日少しずつですが自分のことができることが増えていくことを実感しています。分からないことだらけの新人の私に、一つ一つ熱心に指導してくださる歯科衛生士の先輩方、先生方にはとても感謝しております。

「大学院に行って良かった」と思えるように日々勉学に励むのはもちろんのこと、患者さんからはこの人に任せたい、去年までの自分と同じように実習に來ている後輩たちからはこんな先輩になりたいと思ってもらえるような歯科衛生士を目指します。2年間は間違いなくあっという間に過ぎてしまうと思うので、大学院でも、病院でも自分が興味を持ったことにとことんチャレンジしたいです。日々努力していきますので、これからよろしく願いいたします。

入学者のことば

口腔生命福祉学専攻博士後期課程1年

宮澤 帆乃花



今年度、口腔生命福祉学専攻博士後期課程に入学しました宮澤帆乃花と申します。出身は新潟市です。口腔生命福祉学科12期生として卒業後、最初の2年間はがんセンターで勤務しまし

た。周術期等口腔機能管理を中心とした業務は歯科だけでなく医科の知識も必要とされ、右も左も分からぬ未熟な歯科衛生士でしたが少しずつその専門性を学ばせていただきました。人の生死に近い仕事に携われたからこそ、人間としても少し成長できたのではないかと思います。短い期間でし

たが非常に貴重で、有意義な経験をさせていただきました。

現在は関東で行政歯科衛生士として働いています。臨床とは異なる業務に最初は戸惑いもありましたが、幅広いライフステージに応じた健康教育や事業の企画立案・運営など、多岐にわたる業務を行えることに日々やりがいを感じています。少数職種であるからこそ、これまでの知識や経験を活かして多職種・多機関との連携を心がけております。

大学院進学を考えた契機は、前職での臨床研究でした。先生方や先輩方にご支援いただきながら学会発表準備を進めるうちに「もっと研究手法や根拠について学びたい」と考えるようになりました。転職してからデータを収集・活用して事業の見直しや更なる展開を行う必要性を実感したこともあり、二足の草鞋を履く決断をしました。社会人大学院生であることに周囲からご心配をいただきますが、自分の気持ち次第で何とかやれるだろうと思っています。思い返せば学部生のときは卒業間近でも臨床実習や就職活動・国家試験対策などと同時進行で乗り越えてきたので、ある程度は頑張れると自負しています。向上心を持って、何事にも前向きに頑張りたいです。

現在は課題を通じて学ぶ機会が多いのですが、英語が苦手な私は論文が読み進められない…と苦戦しています。業務でう蝕や歯周病・オーラルフレイルなど様々な分野に携わっているので、これらの専門知識を深めながら研究を進めていきたいと考えています。仕事と大学院生活を頑張る糧になっているのが、長引くコロナ禍で見つけた趣味である着物の着付けです。息抜きもしつつ日々奮闘しています。

学部生を卒業して新潟を離れていても、再びこのような形でご縁があることを非常に嬉しく思います。自身の学びや研究が今後の歯科口腔保健分野に還元できるように精進しますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

創意工夫で越コロナ

歯学部生の今

歯学科2年 真田 翼

五十嵐キャンパスでの教養科目の履修を終え、この春から私たち2年生は旭町キャンパスでの新しい生活が始まりました。先輩方からお話を伺っていた通り授業数が増え、昨年度と比べて格段に忙しくなり時の流れが早く感じています。2年生になり約3ヶ月が経ちましたが、そんな日々の中で感じたことについて書こうと思います。

まず、2年生になり、生活のリズムが一変しました。昨年度は週に1、2回程しか対面形式の講義はなく、Zoomを用いたオンライン講義が主でしたが、今年度に入り毎日キャンパスで対面形式の講義を受けています。1時限目から朝早く起きてキャンパスへ向かうのは大変ですが、講義の中でわからなかった所を友達とすぐに共有できることや先生に気軽に質問に行くことができるなど、非常に学習がしやすくなりました。授業の内容も基礎系の専門科目に変わり、内容がより難しくなりました。覚えるべき内容もかなり多いため、日々の学習では復習に力を入れ繰り返し学習するようにしています。また、先生方から現在の講義内容が、学年が上がると受けるCBTや歯科医師国家試験にも出題されることや、実際の臨床の場で活用されている事例などについて聞くと、基礎系の科目の重要さが分かり、日々の学習のモチベーションにつながっています。

依然として新型コロナウイルスが流行しているため少人数ではありますが、実習やグループワークなども始まっています。人体解剖学実習では実際に人骨を観察し、グループのメンバーと確認しながら教科書では分かりにくい部分を立体的に捉えて理解することができました。また、歯学スタディスキルズⅡでは、昨年のスタディスキルズⅠで自身が作成したレポートよりも論理的な文章の作成に向け、論理的な構成とは何か、や自身と対立する意見の検討など、グループのメンバーと熱い議論を交わしています。今年度の後期からはグループワークや実習がさらに増え、様々なことが体験できます。しっかりとした予備知識をつけて実習に臨みたいので、9月から始まる期末テストは夏休みも利用してしっかり知識の向上を図りたいです。

また、私は歯学部バスケットボール部に所属していますが、日本の全歯学部が参加するオールデンタルが、8月に2年ぶりに開催されることとなり、どの部活動も気合が入っています。私たちバスケットボール部も、新大の他学部や他大学との練習試合などを精力的に行っています。私も2年生にして初めてのオールデンタルですが、決勝リーグに残れるよう精一杯コートを駆け抜け、記憶に残る夏にしたいです。

最後に、これからも仲間や先輩方と一緒に将来に向けて勉強だけでなく、何事にも全力に取り組み、歯学部での生活を文武両道で楽しんでいきたいと思っています。

歯学部生の今

歯学科2年 玉 舎 祥

昨年、新潟大学に入学こそしましたが一年生の間、授業のほとんどはオンラインだったため同期のみんなと会うことも少なく友好関係もなかなか築くのが難しかったです。しかし、二年生になって授業のほとんどが対面になったためほとんど毎日顔を合わせるようになり、より仲間意識が強まったと思います。また、編入生の新しい仲間も増えて去年と比べて格段に学校生活が充実しています。教養教科がほとんどだった昨年と比べて専門性が高く、内容もとても濃く、量もとても多いため日々の授業について行くのは大変ですし、授業を聞いただけでは理解できないことも度々ありますが、休み時間には周りで教えあうなどして解決しているところが多くみられますし、友人がいることで学習意欲が上がっているのではないかなと感じます。ただ、大体いつもいるグループが固定化されてきており、以前先生もおっしゃっていましたが、集まったグループ内の学習能力は似てくる、勘違いして覚えている物事があった時にそのまま気づかないことも起こることなので授業の中でクラスの誰とでも話し合えるような仲になればいいなと感じます。

また、二年生になって大きく変わったことと言えば上記のほかにはカリキュラムの忙しさだと思います。昨年では人によっては平日でも休みを作ったり、あっても一日で1、2時間しかなく時

間がたくさんあったりすることも多かったですが、二年生になって基本毎日授業が2、3時間以上びっしり入っており、もしたまに時間ができたとしても普段の授業の予習復習やその他の課題、やらなければいけないことで封殺されています。授業の開始から2か月半が過ぎた今では最初よりはこの忙しさに慣れてきましたが昨年のように自分のしたいことが自由にできるような休日が全くありません。正直なところ、昨年部活の先輩などから専門学校並みに忙しいと聞いてはいましたがこんなに余裕がないとは想像していませんでした。昨年大変だと話していた授業での課題に匹敵するようなものが毎週のようにあったり、授業の難易度も格段に上がっていることもあり、毎回の予習復習に何時間もかかったりと時間がもっと欲しいと今年度に入ってから何十回思ったかわかりません。先輩方がこれをこなしてきていると考えると本当にすごいなと思います。ただ、将来の夢である歯科医師に直接関係する内容であるため学習の意欲はとても高い状態で保つことができていないかと思います。私の場合は昨年歯科医院で歯科助手として働いていて現場のことを少しは理解しているため、この内容はここで使われることだな、この材料はああいうときに使っていたなと思い出し、楽しみながら学ぶことができます。将来、十分な知識と技術を持った立派な歯科医師になるために同期生の友人と助け合いながら、忙しいカリキュラムに必死にくらいつき、毎日毎日を大切に過ごしていこうと思っています。

コロナ禍 3 年目を迎えて

歯学科 3 年 溝 口 宗一朗

「さすがに来年には明けているだろう」と自分に言い聞かせながら耐え忍んできたコロナ禍も、ついに 3 年目を迎えてしまいました。ここ 2 年はウイルス感染拡大への懸念から様々なイベントに制限がかけられてしまっていたため、大学に入学して 3 年目にもなるのに「噂だとデンタルなるものが毎年開催されていたらしい」「噂だとかつては年 1 回県人会と称して出身県ごとに教授・学生が集まる機会があったらしい」「噂だと例年医歯学祭なるものが（以下略）」といったように、伝聞形でしか知らない行事ばかりといった状況です。僕はバドミントン部と軟式野球部に所属しているのですが、新歓や浜コン、東北 5 大学の交流戦など、やはり「聞いたことはあっても開催されたことがない」という「噂の行事」だらけです。しかし、ありがたいことにメインイベントである（という噂の）デンタルについては今年は開催される見通しなので、今までの 2 年の鬱憤を晴らすべく楽しんでこようと思います（残念ながら今年は中止になりました）。

イベントや部活の話ばかりになってしまうといけませんので、本業である勉強についても書いていこうと思います。3 年生の講義では、昨年度に生理学や生化学、解剖学などの基礎講義で学習した

内容を踏まえて、今度は「口腔」という視点からそれらの内容を捉えなおすということをしています。2 年生の内容がある程度頭に入っているという前提で講義が進んでいくので、2 年生での学習への取り組みがおろそかだと、進学塾の広告のマンガによく出てくる「中学の内容が頭に入らなくて授業についていけない高校生」みたいな状態になってしまいます。「中学英語の現在進行形も分からずによく高校入れたなこいつ」「通信教育でちゃんと勉強できるだけの自己管理能力があったらそもそも勉強で苦労しなくないか？」などとツッコミを入れながら読んでいたものですが、いざ大学に入って似たような状況に置かれてみるとあのマンガも中々バカにできないものだなと思います。「こんな内容も理解してないのによく進級できたなこいつ」と先生方にツッコミを入れられないように、1 つ 1 つの科目に真剣に取り組んでいこうと思います。

講義がより専門的になり、より臨床に近づいていくにつれて思うのが、知識は人の命に直結することです。薬剤の禁忌、口腔の解剖学的構造、各種画像診断法の長所・短所といった基本的なことを蔑ろにしていると重大な疾患を見落としたり医療事故を起こしたりしてしまう、とこれまで何度も先生方に念を押されてきましたし、本当にその通りだと思います。「悪い歯医者」にならないよう、そして「良い歯医者」になれるよう一日一日を大切に邁進していきたいです。



歯学部生の今

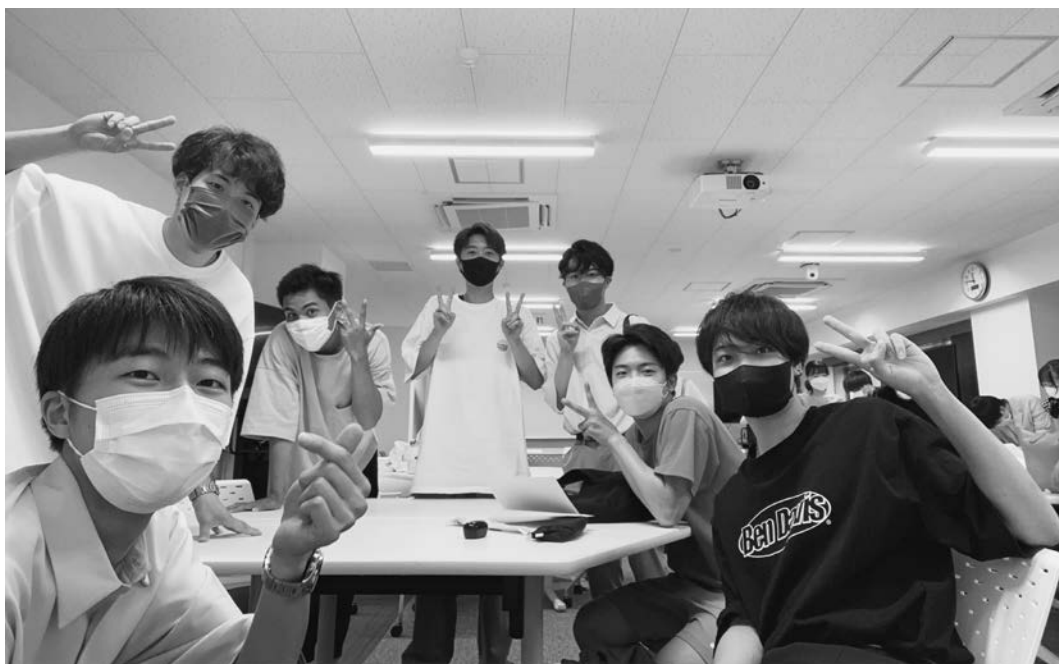
歯学科3年 塩谷 慶太

さて、夢の大学生活がスタートしてから早くも3年目に突入しました。3年生になると、リモート授業はほとんど無くなり対面で行う実習の授業が増えてきました。そのため毎日が非常に忙しく、曜日や時間の勘違いが多くなりました。勘違いは一番怖いので気をつけたいです。また、学年の仲もだいが深まり、3年目にしようやく思っていた学生生活がスタートしたように感じます。そして、新型コロナウイルスも少しずつ収束へと向かい始め、部活動や大会や数々のイベントが徐々に再開し、多くの人が、それぞれの目標に向けて頑張っています。

ところで、3年生になって大きく変わるのが人体解剖学実習の開始です。解剖学の実習は週2日もあり、午後1時から5時過ぎまで続きます。これまでの授業とは授業時間も異なる他、実際のご献体を使っての解剖となるため、改めて、医療従事者になることへの覚悟や責任を持つようになりました。また、1カ月に1度口頭試問が行われるため、1回1回の実習がとても重要になり、実習時間外での勉強量も日に日に増えています。最初

の方は、ご献体での解剖が初めてということもあり、メスやピンセットで皮膚や結合組織を剥がすのが非常に難しく、時間がかかってしまっていたが、実習が進むにつれて実習器具の使い方やコツが分かるようになり作業も効率的になりました。実習を進めていく中で一番興味深いのは、教科書と実際の人の体での構造の違いです。教科書で勉強していても、実際の体の構造と教科書に載っている体の構造とでは全く異なり、神経の走行や血管の分岐部、病変などにより臓器が思っていた構造をしていない可能性もあります。だからこそ、これまでに学んだ知識の再確認に加えて、新たな発見もすることができるのが解剖学実習の面白いところだと思います。全身の体を観察できるのは2度と出来ない体験なので、残りの実習も予習をしっかりとしたうえで前代未聞の失敗をおかさないように真剣に頑張りたいです。

最後に、勉強も歯科医師になるために必要なことではありますが、部活動や友達との思い出作りなど、学生の中にしか出来ないことがたくさんあります。将来、歯科医師となって社会に出た後に、「あの頃は本当に楽しかった」と思えるように、今しかない学生生活を全力で楽しんでいきたいです。



著者は1番右側、授業後に最高の友達たちと一緒に撮影

歯学部生の今 臨床に向けて

歯学科4年 栗田大地

初めまして。私は歯学科4年の栗田大地と言います。私が4年生に進級してから3ヵ月ほど経ちます。ついこの前春休みが終わったような感覚があるのに、もう前期のカリキュラムが終わろうとしているところです。前期は試験の数も多かったですし、今まで以上に沢山学ぶことがありました。自分が勉強したいと思うことに取り組んでいると時間はあっという間に過ぎてしまいます。歯科医師になるための勉強はやりがいがあることばかりです。

ニュースを見ていると新型コロナウイルスの感染状況の項目は以前より目立たなくなってきました。大学生の間でもその傾向は現れていて、対面式の課外活動の許可が下りたり、全国規模の大会の開催が数年ぶりに決定するなど、確実に流行前の日常を取り戻してきています。授業形態も対面式が大半を占めてきました。同級生達はすっかり知識をつけてきて、ディスカッションの時間はとても勉強になります。

さて、4年生は3年生に続き補綴物製作の実習（全部床義歯を製作しています）や、口腔外科学、病理学、歯周病学などを学んでいます。今年度に入ってから3年生の頃よりも「臨床」という言葉を聞く機会が増えてきました。講義の内容は各疾患の症状や予後、診断に重要な点など治療のた

めに必要な知識が主です。3年生までは基礎系の科目の方が多かったので、臨床的な講義を受けるのは新鮮な気持ちでした。スクリーンに映った症例写真などを見ていると歯学部生っぽいなぁと嬉しくなります。安直な思いとは相反して手を抜いた勉強をしているととても学びきれない量なので、講義中は真剣でなくてははいけません。

座学が多い前期のカリキュラムですが、週に何度かPBL（問題解決型学習）の時間があります。PBLでは実際の患者さんの口腔内写真と主訴などを盛り込んだシナリオを渡され、それをもとにディスカッションし、診断名・予防法・治療法などを導き出します。今まで学んできたことを活用して、診断名を決める練習をしているような感覚です。頭の中でとどまっていた知識が、症例写真と一致していると理解が深まった気がします。しかし診断を決めると言うことはとても難しいことでした。私が提案した診断内容は部分的に本質を捕らえている程度で、見逃している箇所があることが多いです。臨床でも同じように見逃しをしてしまったら…と思うと不安になることもあります。

PBLでは同級生達の助けが本当にありがたいです。彼らはいつもアイデアと知識で私が気づけなかった箇所を補ってくれました。勤勉な同級生に囲まれて自分は本当に良い環境にいるのだなと思います。しかしゆくゆくは全て1人でやらなければなりません。理想の歯科医師になれるよう、今後も精進していきたいと思います。

私の夢

歯学科4年 廣 理 芽

私が新潟大学の歯学部歯学科に入学して、4年と数か月が経った。約3年前に起こったCOVID-19のパンデミックによる混乱も落ち着き始め、大学での生活は日常を取り戻し始めている。私たち歯学科4年生は、座学による専門科目の学習に加え、病理学実習や全部床義歯実習などの実習に毎日励んでいる。そして、大学に入学して4年が経った今、私のかねてからの夢だった歯科矯正学が始まった。

実は私は、新潟大学歯学部に入学的一年前に、同大学の医学部を受験している。生まれつき重度の食物アレルギーを持ち、病院にかかることが多かった私は、世界中のアレルギーに悩む人を救いたいと思い、医学部合格を目指して勉強してきた。しかし、現役のときに受けた医学部に落ち、一年間の浪人生活を送るうちに、その夢は大きく変わった。高校の仲の良かった友人たちが大学生活を謳歌しているのを横目に早朝から深夜まで勉強に明け暮れる毎日は、私にとって肉体的にも精神的にも非常に辛いものであった。そんな生活を支えたのは、家族であった。私の父は矯正歯科医であり、常に患者さんに笑顔になってもらえる治療を提供すべく尽力する姿は最高に格好良かった。勉強に悩んだ日は父の診療室に行ってみ学をさせてもらう日も多かった。また、もともと歯科技工士だった母は、私が中学生の時に歯学科に合格し、子育てと家事、仕事を両立しながら毎日歯学部に通っていた。私が浪人生のとき母は歯学科6年生になっていた。その頃母は、毎朝誰よ

りも早く起きて家族の朝食、お弁当を作って大学に行き、浪人生であった私の帰宅時間に合わせて帰宅して夕飯を作り、家事と仕事をこなし、私が寝てから大学の勉強を始め、眠りにつくのは朝日が昇るころという生活を毎日送っていた。外出する際も旅行に行く際も常に片手に参考書を持ち、勉強をしていた母。母は、浪人生活のストレスで理不尽に当たってしまう私を支えながら勉強を続けた。その2人の背中を見て毎日勉強していくうちに、私は両親と同じ歯学部に入学したいと思うようになった。予備校のチューターは志望を歯学部に変えることを快く思っていなかったが、そんな私の話を毎日聞いてくれたのは、大阪大学歯学部に通いながら自分の夢を追いかける兄であった。そして、私の歯学部に行きたいという考えに対し、家族全員が「一度きりの人生だ、なりたいたいものになりなさい」といつてくれた。前期試験願書提出ぎりぎりまで悩んで志願したのは、家族と同じ「歯学部」であった。そして、私が歯学部に入学的した春、母は歯科医師国家試験に現役合格し、今は矯正歯科医として父と一緒に働いている。

歯学部での生活は、かつて私が想像していた以上に大変である。同期のみんなに実習で大幅に後れを取って焦ったり、理想と現実の差に絶望して泣きながら勉強する日も少なくない。そんな時私の頭によぎるのは、家族の姿だ。私は、早く家族に追いつきたい。世界一尊敬している両親と肩を並べられるような矯正歯科医になって、いつかは私も世界一の矯正歯科医になりたい。

その夢を胸に抱いて、今日も私は大学に通っている。

5年生になって

歯学科5年 坂上莉奈

歯学科5年の坂上莉奈です。

5年生に進級して気付けば早くも3ヶ月が過ぎようとしています。以前までは、5、6年生は雲の上のような存在でした。緑衣をきて廊下を颯爽と歩く姿に憧れていたことを今でも覚えています。5年生になり嬉しさと緊張感を感じております。

今までと変わった点は、インプットが多い内容に比べると変化しアウトプットに重点が置かれていて、特にPBLや全身管理学といった授業では、問題点や原因を自分たちで見つけ、それを解決する為にたくさんの資料を参考に解決策や麻酔法などを見出しました。これまで習った内容での取りこぼしや、理解が不十分な点が見当たり知識の補完に役立ちました。

また、実習は総合模型実習とポリクリが中心となっています。前者では、複合的に多くの歯科疾患を抱えた患者様を想定した模型に対し、診療計画の段階から自力で取り組みます。これまでの模型実習でやってきた内容の総復習となります。後者はグループで行う各診療科ローテーション実習です。少人数なので操作を詳しくチェックしてもらえます。質問しやすい状況なのでとても勉強になります。個人的には、口腔外科の実習で採血や下顎孔伝達麻酔を行なったことがとても印象的でした。

また私事ではありますが、十日町きもの女王という新潟県十日町市の観光大使の任期を無事終わ



第46回十日町きもの祭りにて撮影

らせることができました。

十日町は、新潟県南部に位置し、四季折々としたとても素敵な町です。

冬期は降雪量がとても多く、江戸時代あたりから着物産業が発展し京都に次ぐ規模となっています。美味しい魚沼産コシヒカリや、ふのり蕎麦も有名です。

十日町市長をはじめ観光協会の方々にお世話になりました。

現在は、SNSでも有名な清津峡渓谷トンネルをはじめとした大地の芸術祭も4年ぶりに開催しています。

これから7月にCBT、9月にOSCEを控えています。ふと気づくと、学生生活も早いもので1年半しか残っていません。掛け替えのない友人がいたからこそ乗り越えられたこともたくさんありました。これからもずっと支え合い成長していけたら嬉しいです。

Your friendship means the world to me ! :)

いつも、丁寧に講義をしてくださる先生方、見守ってくださる学務の皆様に感謝申し上げます。



「ゆ」一同

歯学部生の今

歯学科6年 加藤音々

気付けば最高学年となっており、月日が経つのが本当に早いなと感じております。6年生となった今、毎日臨床実習に励んでいます。今回このような貴重な機会を頂きましたので、この1年間を振り返ってみたいと思います。

臨床実習の初日、登院式にて歯学部長から激励の言葉を頂きました。これから始まる臨床実習に対する不安と、患者さんとの出会いや実際に歯科治療を提供する楽しみと共に責任の重さを感じたのを今でも覚えています。臨床実習では基本的にスケジュールは自己管理です。各専門診療科の見学に行く日もあれば、総診で自身の担当する患者さんの診療をする日もあります。もちろん自分の担当させて頂く患者さんの予約は自分で取り、時には患者さんに電話をかけて取る時もあります。診療の際にはもちろんのことですが、電話でも患者さんの口腔内の近況について伺い、患者さんの状況を把握するようにしています。そのおかげで診療の前後で患者さんと些細な会話もできるようになり、歯科医療者としての姿勢や態度を学んでいます。

臨床実習は大変なことも多いですが、同級生と助け合いながら53期生みんなで頑張っています。お互いに悩みや治療計画、治療内容の相談をしたり、診療の支援をしたりと、励まし合いながら日々頑張っています。これまで座学として教科書で学んだ知識がなかなか臨床の場につながりにくい部分もありました。しかし先生方とのプレディ

スカッションや診療の見学、ポストチェックを通してご指導して頂くことで、少しずつではありますが歯科医療者としての知識や技術を学び、臨床実習が既に半分終わっている今、初日に感じた不安に少しずつ自信がついてきている気がします。当然ですが臨床実習では基礎実習で学んだ方法と異なる方法で診療することもあり、それがまた臨床の難しさでもあり面白さでもあると日々痛感しております。また、みんなそれぞれ得意不得意がある中で、自己研鑽に励みつつ臨床実習を進めている姿を見て私も頑張らなければと鼓舞され、意識を改めさせられています。また、義歯を製作している患者さんから「新しい入れ歯が楽しみね」と言って頂き、「一生懸命良い義歯を製作しなければ」と原動力になるなど、患者さんからの応援の言葉や治療後の患者さんの笑顔から、逆に元気を頂くこともありました。

臨床実習が残り数ヶ月となったこの時期になると、それぞれ進路について話す機会も増えてきました。また国家試験へ向けた勉強や補講などを受け、国家試験が着々と近づいてきていると感じております。目標とする場所や道はそれぞれ違いますが、53期生全員で卒業までの時間を大切に、臨床実習を頑張っていこうと思います。この1年、現在でも新型コロナウイルスが依然として終息しない状況ですが、私たちは臨床実習にて日々勉強の機会を頂けてまいりました。末筆となりますが、藤井先生をはじめとする多くの先生方より、実習を続けられるように多大なご配慮を頂戴してまいりましたこと、たいへん感謝しております。引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

歯学部生の今

歯学科6年 遠藤 愛

歯学科6年、遠藤愛と申します。歯学部ニュースは、1年生の頃から届くたびに読んでおりました。原稿依頼をいただき嬉しく思います。

さて、6年生は臨床実習を行なっている最中です。のこり3ヶ月となりました。臨床実習が始まると、4階の技工室で主に過ごすこととなります。技工室では同期のみなさんとお互いの症例について相談したり、悩みを共有したり、励ましあったりして過ごしています。初めは慣れなかった「1学年上の先輩の技工室」も、今や居心地の良い場所となりました。

臨床実習をここまで終えて、一番に出てくるのは、今まで学問を教えてくださった全ての方への感謝です。臨床実習に入り、症例を目にすることで、今まで学んできた知識がどのように活用されているのかを目の当たりにしました。2年生から基礎・臨床関係なく、どの科の先生方も、熱心に、親身に、私たち学生に対し対応をしてくださり、とても恵まれた環境で学習を続けることができおり、本当にありがたく思っております。

将来何がしたいのか、そんなことも考える時期となりました。お恥ずかしい話ですが、新大歯学部に入ったのはたまたま新潟出身だった程度のきっかけで、ここ6年間も特別やりたいことが見つからずにいました。しかし、臨床実習を行い今まで曖昧だった知識を再認識したり、新たな考え

方に出会うこと、先生方から助言をもらう中で、どんな分野でもしっかりと勉強することで楽しさを見出せるようになりましたし、将来どのようなことをやりたいかが見えてきました。これからは残りの臨床実習と、国試の合格に向けて、学年全体で高め合って頑張っていきたいと思います。

そして、話は変わりますが、部活動のことを話したいと思っていました。私たちは引退年度の部活動がコロナ禍でなかった学年でした。楽しい時間がなくなってしまったのももちろんですが、一番心残りなのは、時間を共有した先輩方、同期、そして後輩に感謝を言う機会すらなかったことです。周りの方々のおかげで6年間とても楽しく過ごすことができました。この場を借りて、感謝を伝えたいです。そして後輩たちには活動できることに感謝し、楽しんでもらいたいです。

まだまだコロナ禍で油断できない状況ではありますが、今できることを精一杯頑張っていきたいと思います。



バドミントン部同期と 撮影時のみマスクを外しました

歯学部生の今

口腔生命福祉学科2年 並木真菜

2年生に進級してからもう3か月も過ぎてしまったと考えている口腔生命福祉学科2年の並木です。去年とは違い、対面授業が増え、毎日が充実しているためか余計早く感じます。対面授業が増え、自分が一番不安だったことは、もちろん友人関係です。1年生のころから週に何度かは顔を合わせているものの、特に自分は人の顔を覚えるのが不得手で、2年生の4月から対面で、しかもPBLというグループ学習があると知った日には春休み中、不安で仕方がなかったです。実際、そんなことはなく、みんな優しい人ばかりで、サークルに入っていない自分だけ浮くのではとも考えていたのですが、今では対面授業の中でPBLの授業などグループで行う授業が一番楽しいです。

2年生になってからの授業では歯科の専門的な分野を学び始め、また、去年に比べZoomを用いたオンライン授業が格段に減り、ほとんどの授業が対面方式に戻っています。また、新型コロナウイルスの流行が去年や一昨年と比べ、やや落ち着いてきたことからか、早期臨床実習では病院や介護福祉施設等の見学実習をさせていただくことができ、とてもありがたい限りです。見学や実際にその職場で働いていらっしゃる方々のお話を通して、社会の中で歯科衛生士や社会福祉士がどのよ

うな役割をもって働いているのかを学び、自身が学んだことだけでなく、ともに実習を受けたグループ内で学んだことを共有し、様々な視点での考え方を知ることができました。また、歯科衛生士や社会福祉士が働いている職場はどのような場所があるのか、どんな仕事があるのかを実際に見ることができ、大変有意義な見学実習となりました。

自分が一番楽しいと感じているPBLと呼ばれる授業では、6人もしくは7人ごとのグループに分かれ、シナリオから自分たちだけで疑問点や課題を設定し、各々で課題について勉強し、その成果を共有、新たな疑問や課題などを立てるといった学習方法で、自分は普通に講義を受けているよりも知識の定着がしやすいと感じています。PBLを行う前は、難しそうというイメージが強かったのですが、自分ひとりで行うわけではないため、わからないところなどは補い合って学ぶことができ、且つ、自分たちが主体になって行わないといけないため、以前よりも積極性を身に着けることができました。PBLの授業が始まる前に先生がおっしゃっていたように、社会に出たときに、問題に対して自分が何を学ぶ必要があるかを常に考えていくことが重要で、PBLはそういった主体的に考える能力を身に着けられるので、これからも自身が問題に直面した際に、疑問を持ち、それを解決しようとする積極的な学びの意識を持てるように精進していけたらと思います。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科3年 長谷川 葉 奈

「ああ、今日もまた曇りか、…」と毎日の天気の良いさに気分が左右され、晴れの日を今まで以上に嬉しく感じるようになったのは晴れ間の少ない新潟県で生活するようになってからである。しかし、そんな生活も早いところで3年目に突入しようとしており、近年の世の中の時間の流れの速さを痛感させられる。入学当初は非対面授業が当たり前の学校生活で、友達は愚かクラスメイトとさえも面と向かって話す機会はなく、常に心細い思いをしていたのは、今でもつい昨日のこのように思い出される。そんな生活も少しずつ変化し、今では、ほとんどの講義や実習を対面で行うことができ、クラスメイトとも毎日顔を合わせ、充実した毎日を送ることができている。こんな生活は2年前の自分には想像できなかっただろう。

4月に進級し、私たちの生活の中で昨年と大きく変わった点の一つといえば、福祉の授業が本格的に始まったことではないだろうか。昨年は、福祉の内容の講義はあったものの、歯科の専門科目が大半を占めていたこともあり、あまり、深入りする機会は無かった。しかし、今年度に入ってから、週の半分が福祉の時間で埋まり自分の中でも福祉について考えたり、調べたりする時間が大幅に増えた。歯科と福祉の両方の学習の時間を確保し、それぞれの課題に取り組むことは昨年に比べると少し負担に感じる部分もあるが、私たちの学科の特徴でもある、ダブルライセンスの取得には欠かせない大切な過程であると強く感じている。福祉の授業は心の痛くなる現実を知ることが多く、その度に世間の残酷さを感じることも多い。しかし、同時に福祉というものの大切さや役割の

大きさを感じ、この人たちの役に立ちたい、そのためには今何が必要か、と考えることができ、本当に貴重な学習の時間を持てているように感じる。

また、昨年から続く歯科の専門的な学習の中でも昨年とは違ったものもある。その代表的なものとしては、幼稚園での歯科保健指導実習である。実際の対象者に対して自分達で指導計画を立て、対面で歯科保健指導を実施するというこの実習は、私たちにとって未知のものであり、初めは全てが探り探りであった。計画から実際の指導本番まで約2ヶ月間は本当に自分達の計画がうまくいくか常に不安だったが、クラスみんなで意見を出し合い最後の最後まで計画の改善を重ねた。不安が残る中、当日実際に指導をする中で、園児が楽しそうに指導を受けている様子を見た時、ほっと安心したと同時に、達成感を感じることができた。

これからの学生生活の中でも日々、不安は絶えないだろう。しかし、そんな時には周りのクラスメイトと協力しながら学習をより良いものとし、残り少ない学生生活を素晴らしいものにしていきたい。



保育園実習でグループで作成したもの

あっという間に4年生、最終学年

口腔生命福祉学科4年 篠原 風 緒

入学したのがつい昨日のこのように思い出され、私自身「いつの間に」と感じることも多々あり、時間の流れの速さに驚かされるばかりです。写真は新型コロナウイルス流行前の歯学部運動会の際に撮影したものです。写真は撮ってもなかなか見返さないことも多いので、久しぶりにこうして過去の写真を見返すといろいろなことを思い出してとても懐かしい気持ちになりました。

1年次の冬季休み頃から新型コロナウイルスが流行し、私たちの学生生活は一変しました。対面での実習が行えない、オンライン授業が主になるなど学校に行くことや友達に会う機会が減り、なかなかつらい時期もありました。しかしながら、社会もこのコロナ渦での対応に慣れつつあり、実習も再開し対面での講義も行えるようになってきました。徐々にではありますが私たちも本来の学生生活を取り戻しつつあると感じています。

4年生になって臨床実習が始まり、私たちは週に4日病院で実習を行っています。初めて1日を通して外来に出た日の緊張と不安は今でも忘れられません。実習が始まり約3か月が経ちましたが、まだまだ学ぶことが多いと感じています。しかしながら、先生方や歯科衛生士の方をはじめとして、たくさんの方々にご指導をいただき、日々課題にぶつかりながらも成長できているのではないかと思います。

また、病院での臨床実習に加えて私たちはそれぞれが選択した福祉施設において1か月間の社会

福祉現場実習を行います。児童相談所、特別養護老人ホームなど様々な施設での実習が予定されています。この実習は私たちにとって一例ではありますが福祉の現場の実際を経験できる大変貴重な場となっています。私は夏休み明けの9月から新潟大学患者総合サポートセンターにてMSWの実習を行う予定です。患者さんやそのご家族が抱えている問題の相談業務や関係機関との調整や連絡の実際を近くで経験することができる機会をととても楽しみにしています。

さて話は変わりますが、実習が終わるといよいよ歯科衛生士と社会福祉士の国家試験に向けて本格的に資格取得のための勉強が始まることと思います。現場で得た様々な経験を自分たちの武器とし、勉強にもつなげられるようにしたいと考えています。

最後になりますが、4年間で共に歩んできた26人の仲間たちと共に残りの大学生活悔いのないよう過ごしていきたいです。



2019年5月に開催された歯学部運動会の様子

令和3年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	市 川 優 （口腔生命科学）	Low Salivary IgA Levels against PAc (361-386) as a Risk Factor for Root Caries in Older Adults （高齢者における唾液中抗PAc（361-386）IgA抗体の根面う蝕発生リスク因子としての検討）
博士（歯学）	KARAWEK PANYAWONG Raksanan （口腔生命科学）	Oral Health and Nutritional Intake in Community-Dwelling 90-Year-Old Japanese People: A Cross-Sectional Study （日本における地域在住90歳高齢者の口腔衛生と栄養摂取に関する横断研究）
博士（歯学）	星 野 剛 志 （口腔生命科学）	Associations between plasma antibody levels against <i>Porphyromonas gingivalis</i> and atrial fibrillation among community-dwelling older individuals in Japan: cross-sectional study （日本の地域在住高齢者における血漿中抗 <i>Porphyromonas gingivalis</i> 抗体価と心房細動との関連：横断研究）
博士（歯学）	木 村 龍 弥 （口腔生命科学）	Metallization by Sputtering to Improve the Bond Strength between Zirconia Ceramics and Resin Cements. （スパッタリングを応用したメタライズによるジルコニア表面方法の開発）
博士（歯学）	伊 藤 元 貴 （口腔生命科学）	口腔扁平上皮癌細胞におけるアセチルCoAカルボキシラーゼの機能解析と抗癌薬の標的としての有用性の検討
博士（歯学）	笠 原 映 （口腔生命科学）	培養自家骨膜細胞移植を用いた上顎洞底挙上術における歯槽骨再生の評価法としての三次元CT画像解析システムの有用性
博士（歯学）	計 良 倫 子 （口腔生命科学）	日常的なガム咀嚼トレーニングが若年者の咀嚼機能および咀嚼行動に及ぼす影響
博士（歯学）	峯 尾 修 平 （口腔生命科学）	Rice bran-derived protein fractions enhance sulforaphane-induced anti-oxidative activity in gingival epithelial cells （米糠由来のタンパク分画は歯肉上皮細胞におけるSFN誘導性の抗酸化活性を増強させる）
博士（歯学）	山 下 萌 （口腔生命科学）	The periodontal inflamed surface area is associated with the clinical response to biological disease-modifying antirheumatic drugs in rheumatoid arthritis: A retrospective study （歯周炎症表面積は関節リウマチにおける生物学的疾患修飾性抗リウマチ薬に対する臨床反応と関連する：後ろ向き研究）
博士（歯学）	新 ちひろ （口腔生命科学）	骨格性下顎前突症患者における上顎骨形態の三次元的解析
博士（歯学）	笹 杏 奈 （口腔生命科学）	Functional evaluation of suprahyoid muscle activity during chewing （咀嚼における舌骨上筋群活動の機能評価）
博士（歯学）	畑 山 千賀子 （口腔生命科学）	口腔機能が低下した高齢者の咀嚼行動の特徴
博士（歯学）	堀 頌 子 （口腔生命科学）	Masticatory behavior change using a wearable chewing counter: Randomized control study （ウェアラブル咀嚼回数計を用いた咀嚼行動変容：ランダム化比較試験）

博士の専攻 分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	稲 葉 好 則 （口腔生命科学）	Changes in nutritional status of patients with jaw deformities after orthognathic surgery （顎矯正手術に伴う顎変形症患者の栄養状態の変化）
博士（歯学）	河原田 壮 史 （口腔生命科学）	Novel cytological model for the identification of early oral cancer diagnostic markers: the carcinoma sequence model （口腔がん早期診断用マーカーを同定するための新規発がんモデルの確立）
博士（歯学）	中 村 彬 彦 （口腔生命科学）	HEATR1, a novel interactor of Pontin/Reptin, stabilizes Pontin/Reptin and promotes cell proliferation of oral squamous cell carcinoma （Pontin/Reptinの新規結合因子であるHEATR 1 は、Pontin/Reptinの安定化と口腔扁平上皮癌細胞の増殖促進に寄与する）
博士（歯学）	今 井 有 蔵 （口腔生命科学）	脂肪組織由来幹細胞から抽出したCell Extractのin vitroにおける末梢神経再生効果の検討
博士（歯学）	小 山 祐 平 （口腔生命科学）	Cell Extract from Adipose Tissue-derived Stem Cells Potentiates Peripheral Nerve Regeneration （脂肪組織由来幹細胞の細胞抽出物は末梢神経再生を強化する）
博士（歯学）	都 野 さやか （口腔生命科学）	光学式モーションキャプチャ・システムを用いた印象採得動作の定量的解析
（早期修了）		
博士（歯学）	IBN BELAL MD RAZI SAIFULLAH （口腔生命科学）	Comparison of calcium and hydroxyl ion release ability and in vivo apatite-forming ability of three bioceramic-containing root canal sealers （3種のバイオセラミック配合シーラーのカルシウム、水酸化物イオン放出能および生体内アパタイト形成能の比較）
博士（歯学）	NAKSAGOON TRAITHAWIT （口腔生命科学）	Effect of Water Aging on the Anti-Biofilm Properties of Glass Ionomer Cement Containing Fluoro-Zinc-Silicate Fillers. （水中で劣化させた、フルオロ亜鉛シリケートフィラーを含むグラスアイオノマーセメントの抗バイオフィルム効果）



令和 4 年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期・博士後期課程修了者論文名

博士の専攻

分野の名称 氏名（専攻） 博士論文名

修士 AKTER Tahrim The Cross-sectional area of the masseter muscle and late implant failure:
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) A Case-Control study
(咬筋断面積と口腔インプラントの後期失敗に関する症例対照研究)

修士 磯 貝 友 希 歯科衛生士養成女子短期大学生におけるメンタルヘルスと口腔関連QOLの実態および
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) その関連要因の検討

修士 橋 本 真 由 自立高齢者に対する介護予防事業における口腔機能向上プログラムの効果
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学)

修士 山 田 真 子 Factors associated with complete recovery of oral intake in acute
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) dysphagic patients
(急性期嚥下障害患者の経口摂取再獲得に関わる因子)

修士 北 村 友里恵 貧困の連鎖を食い止めるための生活保護世帯の子どもの支援ー子どもの貧困対策の視
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) 点からー

博士 石 黒 明日香 障害福祉施設通所知的障害者の口腔保健の支援に向けた実行機能と関連する歯磨き行
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) 動質問紙の検証

博士 白 水 雅 子 Factors Affecting Masticatory Performance During Dentition Exchange
(口腔保健福祉学) (口腔生命福祉学) Period
(歯列交換期の咀嚼能力に影響を与える因子の検討)



歯学部長 前田健康

人事について

小林正治医歯学総合病院総括副院長の任期満了に伴い、その後任として多部田康一教授（歯周診断・再建学分野）が選任されました。任期は令和4年4月1日から3年間。また、あわせて副病

院長に井上誠教授（摂食嚥下リハビリテーション学分野）、病院長補佐に瀬尾憲司教授（歯科麻酔学分野）が選任されました。

令和3年度補正予算「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の採択について

新潟大学歯学部は文部科学省が公募していた事業に申請していた「メニュー2A 実習等に資するシミュレータ等のDX設備整備（歯）」（取組責任者：前田健康歯学部長）が「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業推進委員会」により選定されました。全国歯科大学・歯学部25件中選定された件数は16件でした（採択率64%）。

本学部では大学GP等による環境整備及び自験患者の確保による臨床実習の充実を進めてきました。近年のデジタル技術は歯科医療の変革、高度化をもたらしていますが、卒前でのデジタル教育

は遅れており、学生は知識の教育で卒業しています（いわゆる臨床教育のミッシングリンク）。臨床能力を担保された歯学生の輩出には、一貫した技能教育体系の構築が不可欠で、歯科医療の潮流となっているデジタル技術をもち、展開できる人材の養成を目的として、CAD/CAMシステムを用いて義歯作成が作成できるデジタル機器ならびに関連機器、さらには3Dプリンターやミリングマシンを導入しました（詳細については小野高裕教授が本号に寄稿）。これら設備一式はE棟1階のE108デンタルトレーナー室に設置されました。

2022年度科学研究費助成事業 採択結果について

2022年度科学研究費助成事業採択結果が発表されました。新潟大学での新規採択は263件で、採択率は32%（昨年度31%）でした。比較的大型の研究種目の採択状況は、歯学部では基盤研究Bが4件（全学で44件）、挑戦的研究（萌芽）が4件（全学で17件）でした。

なお、各種目の全学の新規採択率は下記の通り

です（昨年度採択率）。

基盤研究A	14%（17%）
基盤研究B	36%（26%）
基盤研究C	33%（34%）
挑戦的研究（開拓）	12%（7%）
若手研究	47%（40%）

大学機関別認証評価の評価結果について

本学は令和3年度に大学機関別認証評価を受審し、評価機関である大学改革支援・学位授与機構から、大学評価基準に適合しているとの評価結果

を得ました。歯学部に関する指摘事項はありませんでした。



オールデンタルに向けて

弓道部 稲 田 衡 一

新潟大学歯学部弓道部は2019年のオールデンタルにて、男子団体3位、女子団体準優勝、総合準優勝という好成績を収めました。この快挙を受けて私たちは、来年こそ優勝を目指して頑張ろう！と、次に来るデンタルを目指して日々練習に励んでいたことを覚えています。

しかし、2020年初頭より猛威を振るった新型コロナウイルスの影響で、全国の大学の部活動は大幅な活動の制限を余儀なくされました。それは新潟大学歯学部弓道部も例外でなく、飛沫感染や接触感染のリスクを減らすために普段の練習内容は見直され、また、流行状況に応じて大会は度々延期、中止されるといったように、今まで当たり前に行っていた多くの活動が出来なくなっていました。その中でも、県外移動を伴う大会はコロナの流行が始まってから今まで全て中止となっており、特にオールデンタルが2020年、2021年と連続で中止となったのは、仕方のないことですが非常に悔しく、普段の練習の成果を発揮することができないことにもどかしさと苛立ちを覚えしました。

しかし今年は、ワクチンの普及等に伴い流行が（まだまだ油断ならない状況ですが）徐々に落ち着きはじめたこともあり、3年ぶりにデンタルが開催されることとなりました。これは私たち弓道部員にとって大変喜ばしいことであり、大きな目標を前に練習できることの素晴らしさを噛みしめています。コロナの流行による弓道部の空白の2年間で卒業された先輩方もいれば、新しく入部してくれた後輩たちもいて、コロナ禍前とは雰囲気

の異なる弓道部となりましたが、今いる仲間と共にデンタルへ臨めることを大変嬉しく、そして誇りに思います。

ここで、新潟大学歯学部弓道部の簡単な紹介をさせていただきます。本弓道部は、毎週火・木・土曜日に旭町弓道場で、保健学科弓道部の皆さんと一緒に練習しています。2022年現在、部員数は現役部員、引退部員合わせて22人おり、とても活気に満ちた部活となっております。今年度は7人の新入生が入部してくれましたが、これは現在の1～6年の中では最多の人数となり、今後の弓道部の更なる躍進が期待されます。

2019年のデンタルでの先輩方の活躍ぶりを見ると、歯学部弓道部として私たちが背負うものの大きさを痛感しております。今の1～3年生にとっては初めてのデンタルとなりますが、皆で楽しく、真剣に、そして怪我無く、デンタルの4日間、弓道できたらいいなと思っています。



2022年6月25日、五十嵐弓道場にて撮影

歯学部スキー部

スキー部 歯学科5年 林 幸 穂

こんにちは。歯学部スキー部です。私たちは、現在部員4名で活動しています。活動自体は、新型コロナウイルスの影響により、自粛しております。ですので、今回はコロナ以前の活動について触れながらスキー部の魅力をご紹介させていただければと思います。

歯学部スキー部の主な活動内容としては、冬季デンタルへの参加になります。冬季デンタルでは、アルペンスキーという競技に出場します。アルペンスキーとは、コースに設営された旗門を正確に通過して、ゴールまでのタイムを競うという競技です。冬季デンタルでは、SL・GS・スーパーGの3種目が行われます。前回行われた冬季デンタルでは、男子個人総合6位、男子SL7位、GS9位といった成績を収めることができました。

アルペンスキーと聞くと、難しそうと感じる方もいらっしゃるかと思います。実は部員の中には、アルペンスキー未経験者もたくさんいます。ですが、未経験者の人でもゴールまで楽しく滑り切ることができます。このように、部員全員が充実した競技活動を行えるのは、同じ志を持った仲間たちと協力し合うところにあると思います。ア

ルペンスキーは個人競技ではありますが、スキー用具の準備・コースの設営・競技練習・スタート地点での応援など、どの場面を切り取っても仲間との強い絆が欠かせないのです。

そこで、私たちは少人数でありながらも部員同士で助け合って楽しく活動しています。さらに、以前から交流のあった東北大学スキー部さんと協力し合うことで、競技活動を円滑に進めることを心がけています。前回の冬季デンタルでは、このように仲間全員で一致団結することで、より充実した日々を過ごすことができました。

歯学部スキー部には、このほかにもたくさんの魅力があります。今後の活動を通して、多くの方に歯学部スキー部の魅力を知っていただけたらと思います。

最後に、私たちの部活動の支援をしてくださる顧問の新美先生、いつもたくさん力を貸してくださる他大学のスキー部仲間にご感謝申し上げます。もし、今年度の冬季デンタル開催が決定しましたら、仲間たちと全力で楽しみながら競技に臨みたいと思います。皆様の暖かい応援をどうぞよろしくお願いいたします！



2019年冬季デンタル 東北大学スキー部さんとともに

研修医プログラムを修了して

「研修医プログラム（Aコース）を通して」

Aコース臨床研修歯科医 関 山 裕

この度、執筆を賜りました研修歯科医の関山裕です。研修プログラムはAコースで、1年間新潟大学で研修させていただきます。執筆しております現在は7月であります。研修の日々で感じた事を書いていきます。拙い文章で恐縮ですが、ご拝読ください。

研修歯科医としての生活を初めて3ヶ月経ちましたが、あっという間だったと感じています。外来での業務を終えた後に、次の診療の予習やその日行った診療の反省、患者さんの技工物作りを行っている、いつの間にか定時になっており、そこから帰って家事等を行う生活を行っている、あっという間に1日が終わっています。忙しくはありますが、充実した研修生活を過ごせていると思います。

私がAコースで一番良いと思うことは、患者さん1人1人に対し治療方針を立て、それを1年間通して自分で治療していけるという所です。自分が1口腔単位での治療を将来行っていく上でよい訓練になると思いますし、その治療の経過を1年ではありますが、自分で診ていく事ができるの

は、Aコースの非常によい所だと思います。

また、指導医の先生方の指導が手厚い点もAコースの良い点だと思います。治療方法や治療方針で迷った際には、指導医の先生方が親身に相談に乗ってくださります。診療時には、近くで指導医の先生がみてくださるため、自分ができない所があった場合や想定外の事が起こった場合でも、すぐにサポートしてくださいます。そのような診療環境であるため、自分では少し難易度が高い処置でも、積極的に挑戦する事ができます。私は何を行うにしても不安な性格であるため、指導医の先生方が近くで診療をみてくださる事や、指導医の先生に質問しやすいこの環境がとても合っていると思いました。

研修の日々があっという間に過ぎていくように、これからの歯科医師人生も凄まじいスピードで進んでいくように思えます。そんな中でも流されるままに進むのではなく、日々反省と修正を行い、よりよい歯科医師を目指していく意識を忘れないようにしたいと思います。最後になりましたが、日々の研修生活でお世話になっている藤井先生をはじめとする指導医の先生方や同期の先生方、病院の職員皆様に対し、感謝申し上げます。これからもこの充実したAコースでの良い研修を行っていけるように努力していきたいと思えます。

臨床研修前期（協力型施設）を終えて

プログラムB研修歯科医 荒井 裕 貴

この度執筆を賜りました研修歯科医の荒井です。私は新潟大学医歯学総合病院臨床研修プログラムB（以下Bコース）を選択し、研修の日々を過ごしております。

Bコースとは半年は新潟大学病院の専門診療科、残りの半年は協力型研修施設で研修を行うコースです。私の場合は4月から大阪府の西尾歯科で研修しており、10月からは歯の診療科で研修予定です。今回は西尾歯科での研修について紹介させていただきます。

西尾歯科は大阪府の茨木市という大阪の北の方に位置します。皆さんが大阪と聞くと都会をイメージされるかもしれませんが、どちらかというところ落ち着いたところです。また西尾歯科は商業施設の中に入っており、ユニットは19台、ドクターは15名と大きな医院です。なぜここで研修しようと思ったかという、バスケ部で大変お世話になった先輩が2名就職しており声をかけていただいたのがきっかけでした。

研修が始まって最初に驚いたのは1日の診療の多さです。6年生の臨床実習では患者さんを3時間かけて診療していましたが、20~40分間隔で

次々と診療していくスピード感に4月の最初の頃は頭がついていけず戸惑いました。学生の頃から不器用で実習が遅い自分が安易に来るところではなかったかもしれないと初日は不安になったことを覚えています。

研修が始まると、指導医方は私のレベルに合わせて最大限できることを丁寧に指導してくださり、すぐに初日の不安は杞憂だったと思うことができました。自分のつたない診療に嫌な顔一つせず、次々とチャレンジさせてくれる指導医には感謝してもしきれません。また、そんな環境のおかげで4月半ばにはどんなことでもまずはやってみようというチャレンジ精神が自然と身につきました。それどころか短い診療時間でできるようになるために気づけば診療後に自分から居残って模型練習するようになり、本当に来てよかったなと思っています。

また先生方はじめとするスタッフが温かく仲が良いのも西尾歯科の特徴です。部活の先輩はもちろんその他の先生もとにかく優しく面白い人ばかりで、冗談抜きで毎日大笑いして過ごしています。正直10月に新潟に戻るのが名残惜しい気持ちでたまりません。

執筆している現在は7月頭なのですが、残り3ヶ月猛暑に負けずにより良い研修を送れるように頑張ります。



部活の先輩と研修中の同期（著者右端）

大学院に行こう

予防歯科 大学院4年 田村浩平

私は学生時代から、歯科の世界から少し出て、他分野と関わっていくこと、また、海外で働くことに興味がありました。学生の頃から、大規模な疫学調査である新潟高齢者スタディーや土佐町フィールド医学健診等に参加する機会をいただいたこともあり、さらに本格的にかかわり、疫学や公衆衛生を学びたいと考え、予防歯科の大学院に進学することを決めました。当科がWHO（世界保健機関）協力センターに指定されていることも、海外に興味があった私からは魅力的でした。

先述した新潟高齢者スタディーは、1998年をスタートとし、それから約20年間、毎年実施されている調査で、調査項目は全身的な健康状態から、運動機能および認知機能、生活習慣や栄養摂取状態、そして口腔状態と多岐にわたっています。当初は体育館のような大きな会場で実施されていましたが、近年は参加者数が減り、会場にお越しいただくのが困難な方も多いことから、一戸一戸健診器具を持って訪問するようになっていました。コロナによりここ数年はアンケートの送付のみとなっていますが、私は学部学生の時と、大学院に

入学して1年目にこの健診に参加させていただき、主としてこのデータを用いて、全身と口腔の健康の関連性について解析を行っています。

国際方面については、こちらもまた、ここ数年は海外に行けない状況ですが、国際的なWebinarの運営やWHOやFDI（国際歯科連盟）との共同研究を通し、英語の壁にぶち当たりながらも、貴重な経験を積むことができています。

臨床に関しては、研修後に開業医に進んだ方々と比べ経験が不足するのではないかと、と言われることが多いです。確かに症例数では大きな差があると思います。しかし、様々な外勤先がある、というのは大学院生の強みではないかと思います。一般開業歯科、病院歯科、へき地医療等、場所や出会う患者の多様性は、この後の歯科医師としての将来において、大きな経験になるはずです。

大学院は当然ながら、いつからでも入ることができます。研修後すぐということもあれば、一旦開業医で働いた後という人もいますし、働きながらという人もいます。あらゆる立場の方の選択肢の一つとして、考えていただければと思います。



医局にて 医局員と

大学院へ行こう

歯科麻酔学分野大学院3年 沢田 詠見

大学院の魅力をご紹介できる機会を与えていただき、ありがとうございます。少しでも参考になれば幸いです。

まず、大学院は専門分野をより深く勉強したい人が行くところです。自分から積極的に学んでいく場所であり、マニュアルはありません。その質は、自分のやり方次第で大きく変わります。大学院に入る単純明快な利点は博士号が取得でき、経歴に箔がつくことです。博士号を取得することで、条件の良い選択肢が増えます。周りを見ていると、博士号をフル活用している方しか見たことがありません。もちろん、大学院は好きな学問を深く掘り下げることができるのが魅力ですし、社会に貢献できる可能性のある医療の研究をすることもできます。また、様々な考え方や意見、視点を知ることができ、大変勉強になります。努力は必要ですが、エビデンスと自信を持って安全安心に患者さんへ医療を提供できる人材になることができます。私の当初の入学目的は、歯科麻酔学という学問を高度な教育機関および医療施設で深く掘り下げ勉強し、歯科麻酔学のスペシャリストになることでした。しかし、色んな方との貴重な出会いや様々な経験により、知識や技術を習得することだけでなく、自分はどのような人間なのか、本当は何がやりたいかなど、自分とじっくり向き合える時間となり、その時間は思いもよらない財産となりました。

歯科麻酔科の大学院生活の流れをご紹介します。1年目は、教養基礎科目とともに臨床をメイ

ンで行います。出張日は週に1回、その他、全身麻酔と静脈内鎮静法を曜日ごとの指導医の元で行います。朝は、医科麻酔と合同の勉強会が7時30分から始まり、その後は手術室に籠り、全身麻酔を行います。麻酔準備のために早朝に出勤すると、街の人が少ないので、このご時世の感染対策には最適です。2年目からは研究がメインとなります。週に1回出張、週に1回臨床、他研究日です。研究、臨床に加え、必修講義の履修、講義や学生実習のアシスタント、医局のお仕事などがあります。大学院生活は思うようにいかないことの方が多く、個人的に無駄に思うこともあります。忍耐力は鍛えられますので、無駄なことはひとつもないと言われる所以はここにあるのだと思います。経済面はみなさん不安があると思いますが、授業料免除制度や無利子の奨学金があります。その他にも、ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント、歯科医院へのお出張などにより、普通の生活ができる程度の収入はあります。また、近年はフェローシップ支援という素晴らしい支援制度があります。研究専念支援金（生活費相当額）に加え、研究費も支給されます。是非検索してみてください。

長い目で見ると、4年は短く、あっという間です。日常ではできない経験やかけがえのない縁がつくられていきます。「言うは易く行は難し」ですが、少しでも行こうかなと考えているのであれば、大学院という道に挑戦して、自分とじっくり向き合い、成長できるチャンスを掴むのはいかがでしょうか。

大学院に行こう

歯科矯正学分野 2 年 野 村 隆 之

歯科矯正学分野 2 年の野村隆之と申します。矯正歯科は研修中の方や在学生の方々にとっては、実習が大変だったし、診療内容わからないし、自費診療だし、外来ユニットが離れにあるしと、得体が知れない感じがして、進路から外してしまっている方が多いのではないのでしょうか。私もまだ矯正歯科に進んで日が浅いですが、私の体験が進路を悩んでいる方の参考になれば幸いです。

まず、矯正歯科の齋藤教授の言葉を借りて、「矯正治療は元々の咬合に戻す医療ではなく、新しい咬合を作り出す医療」です。私自身も、その特殊性に興味をもって矯正歯科に進みました。私は研修を新潟大学 A コースで行っていましたので、大学院に入った後は一般歯科とは全く異なる診療内容しかなく、矯正歯科治療の流れを一から叩き込む必要がありました。すべて自力で勉強するわけではなく、矯正歯科では院生一人ひとりに師匠がいて、配当症例の方針など、わからないことを教えていただけます。また、大学院 1 年目の間に、矯正治療の方針決定に必要な分析方法や考え方などを一から教えていただけるので、心配はいりません。矯正臨床の訓練については「タイポドント」という教育システムがあります。学生実習で前歯部の歯肉がワックスでできた特殊な模型があったと思いますが、それを全顎にしたものです。人工歯の位置を変えて実際の患者さんの不正咬合を再現することで、どのようなワイヤーを装着すればその状態が治っていくかというのを練習することができます。

新患として配当される患者さんは、口唇口蓋裂や先天性疾患、外科処置を伴う矯正治療が必要な症例が多く、開業医ではできない内容が多く含ま

れます。科内の症例検討会で、教員の先生方の経験から様々なご意見をいただき、矯正歯科が一丸となって最適な方針を模索していきます。治療の成果ができるまで時間がかかる分野ですので、まだ自分でワイヤーを入れて、不正咬合が改善するまで診た患者さんはいませんが、その成果を感じられるのを楽しみに今後も頑張っていきたいです。

現在研修中の方も、これから研修先を考える方も、選んだ研修先によって矯正歯科への道が閉ざされることはありません。今年度の医局説明会は既に終わっていますが、入局試験は 10 月頃です。興味がおありでしたら、新潟大学歯科矯正学分野の facebook に詳細がありますので、是非そちらからどうぞ。



令和 4 年 4 月撮影 白山神社にて

学会受賞報告

第80回 日本矯正歯科学会学術大会 優秀演題賞受賞報告

歯科矯正学分野 栗原 加奈子

この度、2021年11月に開催された第80回日本矯正歯科学会学術大会において、優秀演題賞を受賞しましたのでご報告致します。

発表内容について、演題名は「嚥下時の舌圧発現様相および顎顔面筋群筋活動は口蓋深さと関連する」です。舌や口唇、頬部軟組織の運動は顎顔面形態や歯列・咬合の維持と密接に関連しますが、嚥下時における舌や口唇、頬部軟組織の運動と口蓋形態との関係性は明らかではありません。そこで本発表では、個性正常咬合者における嚥下時の舌圧と顎顔面筋群筋活動を同時測定し、口蓋形態との関係性を検討しました。その結果、狭く深い口蓋では、嚥下時の舌と口蓋への舌接触圧は低く接触時間も短くなる一方で、嚥下時の口唇・頬部軟組織の筋活動は大きくなる可能性が示唆

れました。

さて、学会期間中はチャット形式によるディスカッションタイムがありましたが、相手が見えないこともあり、はたして伝わったのか不安が残ってしまいました。今年度に入り、現地開催となる学会も増えつつありますが、会場で発表し対面による意見交換を通して得られる知見にはやはり敵わないと改めて実感しました。

ご多忙にも関わらず、貴重なお時間を費やしご教示賜りました齋藤功教授、丹原惇先生、高橋功次朗先生、福井忠雄先生、包括歯科補綴学分野の小野高裕教授、堀一浩准教授、大川純平先生、研究にご協力いただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

第80回 日本矯正歯科学会・学術大会 優秀演題賞受賞報告

歯科矯正学分野 長崎 司

この度、第80回日本矯正歯科学会・学術大会において、優秀演題賞を受賞致しましたので、ご報告させていただきます。今回受賞した演題名は「舌圧と顎顔面筋群筋活動の同時測定による骨格性下顎前突症の嚥下運動解析法」です。

これまで、骨格性下顎前突症患者の嚥下時における舌圧や顎顔面筋の筋活動が健常者とは異なることを明らかにしてきました。骨格性下顎前突症患者の嚥下運動は、健常者と比較すると経時的変化に協調性がないため、ゼリー嚥下時の舌運動と口唇・頬部軟組織の運動を同時測定し、時系列的関係性を検索することで、嚥下運動の評価が可能になるのではないかと考え、本研究を立案しました。

その結果、骨格性下顎前突症患者では、上下顎骨の形態的不調和により舌尖から口蓋正中前方部までの距離が長く、舌尖の固定位置が健常群と異なり、舌の挙上が困難で周縁部が先に接触する可能性や、舌の口蓋への接触に先立ち、口唇閉鎖や舌骨の挙上開始を早期から行うことで、嚥下前の陰圧形成に時間がかかり、舌の挙上や食塊移送時の舌運動が長期化している可能性が示唆されました。

最後になりましたが、今回の受賞にあたり、ご指導いただきました齋藤功教授、栗原加奈子先生、小野高裕教授、堀一浩准教授、ご意見をくださいました歯科矯正学分野の先生方に心から厚く御礼申し上げます。

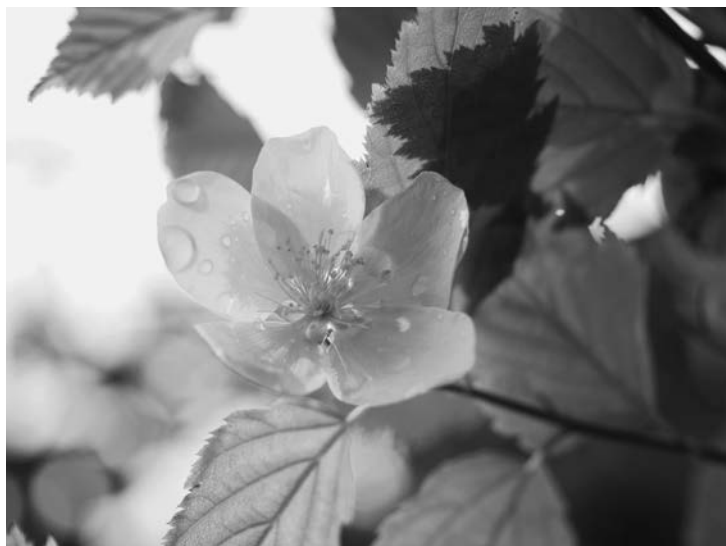
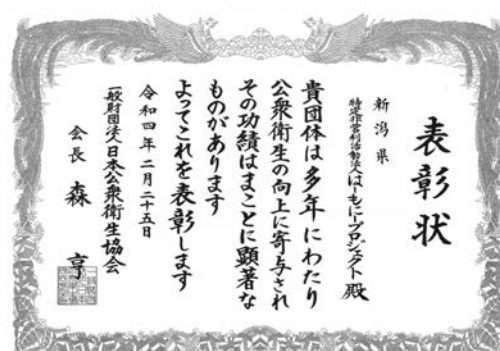
公衆衛生事業功労者表彰を受賞して

口腔保健学分野 特定非営利活動法人「はーもにープロジェクト」 葭 原 明 弘

私が代表理事を務めている特定非営利活動法人「はーもにープロジェクト」が令和3年度公衆衛生事業功労者表彰を受賞しました。表彰は長年にわたり健康増進の活動に取り組んできた団体や個人の功績をたたえるため一般財団法人「日本公衆衛生協会」が毎年実施しています。当会の他に6府県8団体が功労者に選ばれました。

はーもにープロジェクトは、歯科保健において、「町づくり」の視点を取り入れ全国的にもユニークな住民参加型歯科保健活動を約20年にわたり実施してきました。活動の成果の一例をお伝えします。在宅高齢者への訪問歯科保健指導事業（笑顔の宅配プロジェクト）では、関係機関との協働のもと事業を展開しました。また、地域での

多様なネットワークの形成（ホワイトフォープロジェクト）では、学校や自治会との連携強化を図りました。今後とも住民の歯科保健に対する意識向上に努めて行きたいと思います。



新潟歯学会賞・第1回表面筋電 バイオフィードバック研究会優秀演題賞 受賞報告

摂食嚥下リハビリテーション分野 笹 杏 奈

この度、2021年度新潟歯学会ならびに第1回表面筋電バイオフィードバック研究会において、歯学会賞ならびに優秀演題賞を受賞いたしましたのでご報告します。

本研究では、咀嚼から嚥下へ至る過程を表面筋電図ならびにモーションキャプチャシステムを用いた顎運動軌跡を同時記録することによる食塊形成評価を行いました。

これまでの同様の研究では、咀嚼筋筋電図や顎運動軌跡が食品の硬さに伴い特有の変化を示すというものにとどまっていたが、私たちは、食品粉碎後の食塊形成過程における食品条件の違いが筋活動や顎運動にどのような影響をもたらすかについて解明したいと思い、閉口時に働く舌骨上筋群に着目して独自の解析を行いました。その結果、油分含有量が少なく吸水率の高い食品咀嚼時、咀嚼後期において食塊形成のために働く舌骨上筋群活動の増加を示唆する結果を導くことに成功しました。今後は、他パラメータや様々な食品の評価・解析を行い、摂食嚥下障害患者さんの機能に対応した食品開発やその評価につなげること

ができればと思っています。

最後に、研究立案から記録、解析にいたるまで熱心な御指導を賜りました新潟大学摂食嚥下リハビリテーション学分野の井上誠教授、真柄仁講師、本研究に携わっていただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。



日本歯周病学会 Young Investigator Award 受賞報告

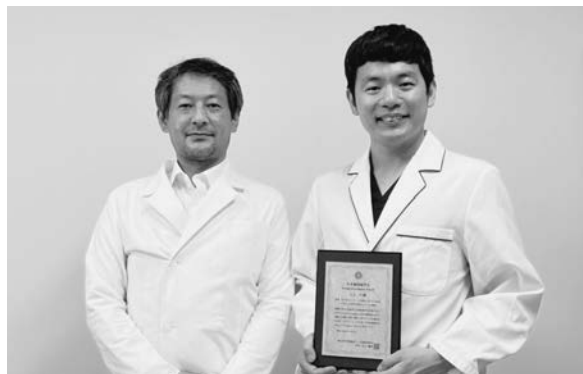
高度口腔機能教育研究センター 歯周診断・再建学分野 日 吉 巧

この度、第64回秋季歯周病学会学術大会において、日本歯周病学会Young Investigator Awardを受賞いたしましたのでご報告させていただきます。今回受賞した演題名は「好中球エラスターゼの歯肉上皮バリア傷害作用による歯周炎重症化メカニズム解析」です。

本研究では、好中球が有するタンパク質分解酵素エラスターゼが、細胞接着分子を分解することで歯肉上皮バリアを破壊し、歯周炎の重症化を誘導することを明らかにしました。さらに、エラスターゼ阻害剤の局所投与により、歯周炎重症化が抑制される可能性が示唆されました。本研究は、エラスターゼを標的とした新たな歯周炎制御法につながる可能性があると考えています。

最後になりましたが、ご指導いただきました土

門久哲先生、前川知樹先生、多部田康一教授、寺尾豊教授をはじめ、研究にご協力いただいた多くの先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



ご指導くださった多部田教授（左）と

6th International Conference on Food Oral Processing—Best Poster Award受賞報告

包括歯科補綴学分野 大 川 純 平

この度、令和3年7月に開催されました6th International Conference on Food Oral Processingにおいて、Best Poster Awardを受賞いたしましたので、報告いたします。Food Oral Processingは、食品摂取に関する学会であり、口腔生理学や摂食嚥下リハビリテーション学、食品科学、栄養学などの分野から研究者が集まります。本来はスペインで行われる予定でしたが、COVID-19の影響でWebでの開催となりました。

私は、「Your Urge to Swallow may be Influenced by Retronasal Aroma」という演題で発表をいたしました。レトロネーザルとは、咀嚼された食塊から放出された香りが、咽頭から鼻腔へと流れて感知される経路のことです。鼻をつまむと味が感じにくくなるのは、このレトロネーザルが関係しています。

これまで、咀嚼能力評価用グミゼリーを用いて、咀嚼能率が高い・咀嚼回数が多いほどレトロネーザルの香りが増加することを明らかにしています。今回、レトロネーザルの香りは、食品摂取中の嚥下衝動（嚥下閾）にも影響を与えるのではないかと考え、研究を行いました。その結果、グミゼリー摂取中に鼻孔から測定された香りは咀嚼中に減少に転じますが、このときの咀嚼回数は嚥下閾に達する咀嚼回数と同等となり、レトロネーザルの香りと嚥下閾とは関係があることが示唆されました。今後は早食いなどの食習慣に、香りがどのような影響を与えるかを研究したいと考えています。

最後になりましたが、ご指導いただきました小野高裕教授、堀一浩准教授、ならびに研究にご協力していただきました方々に心から厚く御礼申し上げます。

「日本小児歯科学会学術賞 “LION AWARD” 受賞報告」

小児歯科学分野 中 村 由 紀

このたび、日本小児歯科学会学術賞“LION AWARD”を受賞いたしましたのでご報告申し上げます。

受賞研究課題は「口唇と関連運動器官の機能変化からみる摂食スキルの発達」です。本研究課題では、小児期の摂食、特に捕食機能に着目し、捕食時の口唇閉鎖機能および口腔と食具操作との協調運動について、小児期の機能的特徴を検索し、発達過程ゆえの摂食機能の未熟さについて客観的指標の端緒を掴むことができました。今回の受賞で、この研究結果を報告した論文を含む、最近の研究業績を評価いただけたことを大変嬉しく思っております。

口腔機能の維持向上の重要性が社会的に広く認知されてきた現在において、小児を対象とした口腔機能管理も今年から保険適応年齢が拡大されるなど、さらなる充実が求められています。今後は、摂食の機能的側面から食の安全についての検討や、小児の機能発達に応じた食品選択への知見

提供ができるよう、尚々研究を進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、今回の受賞に当たり日頃より支えてくださっている早崎教授はじめ、分野の先生方に心よりお礼申し上げます。



「受賞講演の様子」



6 th International Conference on Food Oral Processing: Fonterra Awards Best overall poster award受賞報告

包括歯科補綴学分野 村 上 和 裕



この度、6 th International Conference on Food Oral Processingにおいてポスター発表を行い、Fonterra Awards Best overall poster award に選出いただきましたので、ご報告させていただきます。この学会は、食品工学を主軸とし、口腔生理学や栄養学と連携した研究も数多く取り上げられています。食品工学系の学会なだけあって、学会の合間のスイーツや学会後のディナーはどれも美味で、現地開催を強く願っていましたが、残念ながら新型コロナの影響でWeb開催（バレンシア、スペイン）となりました。

今回、私は「The maximal voluntary tongue pressure can predict the limit fracture force value of gels in tongue

squeezing」と題して発表いたしました。本研究は、提供者の主観的判断や長年の経験で選ばれがちな要介護高齢者の食事形態を、より客観的に選択する方法を検討するための基礎的研究で、近年普及しつつある舌圧検査と、対象者が舌で押しつぶせるゼリーの硬さの限界値との関係进行评估しました。その結果、若年者と有歯顎高齢者のどちらにおいても最大舌圧と舌で押しつぶせるゼリーの硬さには正の相関関係があることが明らかになりました。今後は総義歯装着高齢者においても同様の研究を行い、要介護高齢者の食事形態決定における舌圧検査の有用性を明らかにしていきたいと考えております。

最後になりましたが、今回の受賞にあたり、ご指導いただきました小野高裕教授、堀准教授に心よりお礼申し上げます。



日本補綴歯科学会 奨励論文賞受賞のご報告

生体歯科補綴学分野 冠ブリッジ診療科 高岡 由梨那

この度、令和3年度日本補綴歯科学会奨励論文賞を受賞いたしましたので、ご報告いたします。私の論文は「The relationship between dental metal allergy, periodontitis, and palmoplantar pustulosis: An observational study.」というタイトルで、新潟大学医歯学総合病院歯科金属アレルギー外来を受診された患者さんを対象にした臨床研究です。本研究では、歯科用金属の種類別に金属アレルギーとなるリスク比について解析しました。また、金属アレルギーとの関連が示唆されている掌蹠膿疱症に注目し、疾患に対する歯周病と金属アレルギーの関与について解析を行いました。解析の結果、どちらも健常者と比較して関与している割合が有意に高いという結論を得ることができました。

最後になりましたが、今回の受賞にあたり、ご指導いただきました魚島勝美教授、多部田康一教授、秋葉陽介講師および本研究にご協力いただき

ました多くの先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、今回はながたクリニックの伊藤明子先生、増井由紀子先生にも共同研究者としてご指導いただきました。重ねて御礼申し上げます。



ご指導いただいた魚島教授（右）と著者（左）



第67回日本顎口腔機能学会 学術大会優秀賞 受賞報告

摂食嚥下リハビリテーション分野 板 離 子

この度、2022年6月に開催されました第67回日本顎口腔機能学会学術大会におきまして、優秀賞を受賞しましたのでご報告させていただきます。演題名は「舌圧発揮時の舌筋および舌骨筋群の筋電図学的分析」です。

今回の研究では、様々な舌圧強度における等尺性の舌挙上運動において、舌筋および舌骨筋群の表面筋電位を記録し、舌圧発揮時に周囲関連筋がどのように協調して働いているのかについて検討しました。その結果、強い舌圧発揮には、舌骨筋群の活動が大きく寄与しており、強い舌圧発揮を維持する際には、舌筋の疲労が認められますが、それに対応して舌骨筋群が代償的に筋活動量を増加させていることが示唆されました。

初めての学会発表で至らない点もありましたが、多くの先生方から沢山のご意見をいただくことができ、これを励みに今後も研究活動に邁進し

たいと思います。

最後に、ご指導いただきました真柄仁先生、井上誠教授をはじめ、研究にご協力いただきましたすべての方々に心より感謝を申し上げます。



指導医の先生と記念に



硬組織形態学分野の紹介

硬組織形態学分野・教授 大 島 勇 人

1. はじめに

「硬組織形態学分野」の前身である「口腔解剖学第一講座」は布施栄明先生を初代教授とした肉眼解剖学教育担当講座として、新潟大学歯学部が設立された翌年にスタートした。1973年に小澤英浩先生が第二代教授として教室を担当することになって以来、「マクロ、ミクロの教育・研究ができる解剖学者の育成」をめざし、広範な解剖学を2つの口腔解剖学講座が適宜分担して講義・実習を行っていた。2002年からは第三代教授として大島勇人が教室を引き継いだ。大学のミッションは時代と共に変化していく。最近では、大学発のベンチャー企業を増やすという国の施策に従い、大学のミッションは、「教育」「研究」「臨床」に加え、実用化に資する「研究開発」が求められるようになった。大学のミッションは多様になっているが、硬組織形態学分野が新潟大学に貢献できるミッションは、教室設立以来変わらず「社会で活躍できる歯科医師に必要な解剖学教育の実践」および「オーラル・バイオサイエンス研究の推進」である。

2. 硬組織形態学分野の現状

- ① 講座・教室設立年月日：1966年4月
- ② 主任教授名：大島勇人（2002年1月就任）
- ③ 分野人数（13名）：教授1名、准教授1名（依田浩子）、助教1名（Angela Quispe Salcedo）、技術補佐員2名（常木雅之〔学部内非常勤講師〕、河内美帆）、事務補佐員1名（須貝 恵）、研究員（渡辺泰典、真喜志佐奈子）、研究補助者（石山巳喜夫〔日本歯科大学名誉教授〕）、大学院生1名

（Kiyoko Nélida Suzuki Barrera [JICA 日系社会リーダー育成事業奨学生]）、他分野からの大学院生3名（高見寿子〔肉眼解剖学〕、佐野拓人〔検査技術科学〕、大島秀介〔耳鼻咽喉科頭頸部外科〕）

- ④ おもな研究テーマ：（1）歯と顎顔面頭蓋領域の形態形成機構に関する研究、（2）象牙質・歯髄複合体の発生と再生に関する研究、（3）デンタルインプラント手術時合併症のリスク評価とオッセオインテグレーションに関する研究

現在の教室員は、上記の様に他分野からの大学院生を含めて総勢13名であるが（写真1）、学内臨床分野、韓国遠征大学校、物質・材料研究機構（NIMS）、岩手医科大学、日本歯科大学、神奈川歯科大学、東京医科歯科大学、福岡歯科大学などと共同研究を実施している。2008年より毎週1回学生との英語本読み会を実施し、学部学生が気軽



写真1. スタッフの集合写真（2021年6月16日）
前列左からAngela Quispe Salcedo、依田浩子、大島勇人、石山巳喜夫、後列左から渡辺泰典、阿部優子（現 共用設備基盤センター専門職員）、真喜志佐奈子、Kiyoko Nélida Suzuki Barrera@リフレッシュルームE319

に教室に足を運ぶ環境が構築できていたが、2020年のCOVID-19パンデミックにより中止を余儀なくされている。本読み会参加者から研究に興味を持つ学生が何人か現れ、大学院まで進学してくれる人材が育ったことは大きな喜びである。英語力の中でも「読む力」は一朝一夕に身につくものではない。時間をかけて英文を正確に訳し理解する地道な作業の繰り返し、英語力の向上に必要な。それ以上に、授業科目以外での教員と学生との接点は人材育成の有効な方略にもなっている。筆者が学生の頃は、基礎・臨床講座の多くの教授が本読み会を実施していたのを思い出す。現在本読み会が行われていない状況は、人員削減が教授の余力をスポイルしている現実に起因しているのかもしれない。

3. 硬組織形態学分野の教育

学生が自ら学ぶための方略として、学生が解剖学的重要性を実感できるように、常に歯科臨床との繋がりを重要視している。解剖学実習の際にも、口腔外科学、歯科補綴学、歯科放射線学の教授やインプラント専門の開業医による「歯科臨床における解剖学的重要性」についての講義を内容に含めている。ご協力頂いた先生方に感謝申し上げます。解剖学実習では、限られた時間で効率的な実習を行うために「やって見せる、やり方を教える、その通りにやらせる」を基本とした指導を行い、実習項目の到達目標を明確にすると共に口頭試問も実施し、学生が自主的に学習するよう促している。すべての科目で講義・実習のテキスト（手引き書）を製本して学生に配付し、学生が膨大な内容の解剖学を効率的に学習することができるように努めている。教育の基本は、テキスト（教材）と問いである。内容の濃いテキストを学生に出会わせ、そこに問いを投げかけ、テキストからの吸収を良くさせる目的だが、同時に、多くの学生がテキストしか勉強しない状況を見ると、テキストの功罪について考えさせられる。市販の教科書においても、版を重ねる度に、ビジュアルで分かり易くなっている反面、大切な情報がそぎ落とされていくことが多い。古い版の書籍を見て感銘を受けることが多々ある。

大学院教育においては、明確な目標設定と目標達成のために適切な方略の立案と研究の実行力が重要だと考えている。大学院早期から各自に興味ある研究に積極的に参画させ、研究遂行能力、問題解決能力を養わせることが大学院教育に不可欠である。目標設定には十分な議論を重ね、到達可能な目標を目指した研究を遂行し、結果が出たら、それをまとめ学会発表をし、論文にまとめるという一連の過程を出来るだけ早く経験してもらい、研究に興味を持ってもらうことが重要だと考える。非常に遠い先にあるゴールに向けて、興味を失わず、努力し続けることができる気質である「やり抜く力」と何かを繰り返し継続的に行うことで向上する「自制心」もった大学院生が大きな成果を残すのは間違いない事実である。

4. 硬組織形態学分野の研究

教室の主要な研究テーマは歯と顎顔面頭蓋領域の形態形成機構に関する研究と象牙質・歯髄複合体の発生と再生に関する研究だが、詳細は2002～2022年の教室オリジナルの研究成果を歯学部業績目録より参照頂きたい。依田准教授は、プロテオグリカンの仕事に加え、酵素合成グリコーゲンによる歯と骨の再生研究に着手すると共に、器官発生過程における細胞内グリコーゲン蓄積過程に着目し、歯と顎顔面頭蓋領域の発生過程における糖代謝の新規メカニズム解明やオートファジー研究で成果をあげている。2010～2014年に大学院生として在籍していたAngela Quispe Salcedo博士が、2021年よりJSPS外国人特別研究員として教室に戻った。そして、2022年3月より助教になり、教室の教育のみならず歯髄生物学研究の発展に尽力している。渡辺泰典研究員は、大学院時代のインプラント植立後のオッセオインテグレーション研究を多血小板血漿との併用研究に発展させている。NIMSとの共同研究でオステオポンチン（OPN）ペプチドコーティングインプラント研究で学位を取得した真喜志佐奈子研究員は、更なる研究の道に邁進する計画である。また、Kiyoko Nélida Suzuki Barrera大学院生は、歯の再植後の歯髄治癒過程におけるOPNの役割に関する研究で興味深い知見を得ている。病理画像



図3. 第10回Tooth Morphogenesis and Differentiationに関する国際学会（於：ベルリン）参加者の集合写真。ラボスタッフ5名が参加。2010年9月。



図4. Frontier Meeting（於：韓国全州）参加者の集合写真。2013年2月。
長年の共同研究者Han-Sung Jung教授（Yonsei University）とEui-Sic Cho教授（Chonbuk National University）が主催した。ラボスタッフ5名が参加。

解析のAIモデルの開発で先駆的な会社である（株）Medmainの役員である常木雅之技術補佐員は、教室の研究アドバイザー・技術サポートや解剖学教育に尽力している。河内美帆技術補佐員は人体解剖学実習および中枢神経学実習に関わる業務を担当している。

5. さいごに

歯科基礎医学の発展のためには、国際的競争力のある研究成果を発信することが重要であり、研究の質の向上とそれを支える人材の求心力が必要である。研究はより高いレベルで、より広い舞台でアピールしていくことが求められる。世界の歯と顎顔面頭蓋領域の研究者が3年に1度

一堂に会するTooth Morphogenesis and Differentiationに関する国際学会（通称TMD、写真3）や歯の研究者の日韓交流（写真4）にはなるべくラボ全員で参加することを心がけていたが、COVID-19パンデミック以来、ことごとく国際的なイベントが中止になり、2022年に再開したTMDに参加できなかったのは残念な事である。これからも、学内および国内、そして海外と連携を取りながら歯の発生生物学と歯髄生物学の研究を進展させることに尽力したい。そのためには、「教育・研究者としての魅力」、「教育・研究者としての情熱」、「教育・研究の質に対する向上心」が鍵となる。

素 顔 拝 見



摂食嚥下
リハビリテーション学分野

落 合 勇 人

2020年4月より、摂食嚥下リハビリテーション学分野で言語聴覚士として勤務をさせて頂いております落合勇人と申します。この度「素颜拝見」の執筆の機会を頂きましたので、大変恐縮ながら自己紹介をさせていただきます。

私は埼玉県で生まれ育ち、大学卒業後に千葉県のリハビリテーション病院での勤務を経て、母校で教員として5年間勤務を致しました。その後に御縁を頂き、摂食嚥下リハビリテーション学分野で勤務をさせて頂いております。趣味はランニングで20代の頃は、富士山登山競争や、100マイル(160km)の山岳レースに毎年出場し、痛みと苦しみと少しの達成感を愛する耐久レースジャンキーでした。

さて、言語聴覚士(ST)はマイナーな職(更に歯科にいるSTは大変少ない。)ですので、少しご紹介をさせていただきます。STは、小児～成人までのコミュニケーション、食べる機能の障害の評価・リハビリテーションを生業とし、主に脳卒中等に伴う失語症や高次脳機能障害、構音・音声障害、吃音といった発声発語障害、自閉症などの発達障害、聴覚障害、種々の要因による摂食嚥下障害の支援に携わります。

私も様々な領域を経験して参りましたが、軸は摂食嚥下障害の方々への支援です。

新人の頃、神経難病の方を担当させて頂いた際に、発語も経口摂取も困難になっていく中で「水を一杯飲みたい」と時間をかけてつづって下さった文面を頂いたことがありました。

有効なことが何も出来ずに、STの看板を下げ

ていることを情けなく感じた時でした。

そんな時に人生で初めて参加した学会が、新潟で開催された摂食嚥下リハビリテーション学会でした。当時は金欠で宿泊は漫画喫茶に夕食はすき家でしたが、見聞きする講演と熱量に興奮し、この分野にこだわり、最後のひとさじまで支える専門職になろうと強く感じたことを印象深く覚えています。それから10年以上経過し、新潟大学で臨床・研究をさせて頂いていることに不思議な御縁と、これ以上はない充実した時間を過ごさせて頂いております。デスクには当時の患者さんからの文面を一番目につくところに貼って、今もお尻を叩いてもらっています。

摂食嚥下領域の臨床・研究の奥深さと新潟に魅了されて早3年目になりました。ご指導頂いている医局の諸先生方には感謝の日々です。力不足ですが、新潟大学に少しでも貢献できるように精進して参ります。今後とも何卒よろしくお願い致します。



歯周診断・再建学分野

中 島 麻由佳

2022年4月1日付でスイングバイ・プログラム助教を拝命致しました、歯周診断・再建学分野の中島麻由佳と申します。素颜拝見執筆の機会を頂きましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

私は新潟市の出身で、新潟大学病院のすぐ近くに実家があります。幼少期から身近にあって馴染み深く、また自身の歯科検診を大学の小児歯科の先生にして頂いていた縁もあり、新潟大学歯学部への進学を決めました。地元の大学へ進学したの

で周りの方からは親孝行と言われるのですが、実際は全くそうではありませんでした。親の目から逃れて自由に学生生活を送りたい！との思いから、狭い実家マンションを出て、更に大学に近いところに部屋を借りて一人暮らしをさせてもらっていました。なんてワガママな娘だったのだろうと、今振り返って思いますが、希望を叶えてくれた両親には感謝しかありません。学部学生時代は、よく遊び、そこそこ学ぶ学生でしたが、歯周診断・再建学分野への大学院進学を考えるきっかけになった瞬間は今でも覚えています。当時の歯周科教員の先生がとてもお話が上手で、その先生が語った研究のお話に引き込まれ、その時ばかりは夢中で講義を聞きました。それは私と研究との出会いの瞬間でもありました。そこから10年以上経った今では、研究の魅力にどっぷりとハマり、海外研究留学を経てこれからもずっと続けたい仕事と思っていますし、若い学生さん達にもその魅力を伝えていけたらと思っています。

海外留学についてですが、2019年4月から2022年3月までの3年間、米国ボストンにあるハーバード大学でドラッグデリバリーシステム(DDS)に関する研究を行なって参りました。そのラボでは数々のユニークなドラッグキャリアの開発を行っており、自身の専門である歯周病治療への応用研究が私のメインテーマでした。それまでにDDS研究を行なったことがなかったため、初めは苦労することも多くありましたが、今までに見たことのない世界へ足を踏み入れ、3年間exciting!な瞬間の連続でした。当時3歳になったばかりの一人娘と主人の家族3人で渡米致しましたが、アメリカならではのゆったりとした時間の中で、家族の時間を沢山作れたことも良い思い出となっています。留学中に経験したことや学んだこと、また出逢った人々は私にとってかけがえのない宝物となっています。

この4月に再び新潟へ戻ってきましたが、新たな気持ちで良いスタートを切れたように思います。これからはDDS研究を主軸に、またスイングバイ・プログラムの趣旨に沿って、広く他分野の先生方とも関わっていろいろなお仕事ができたと思っています。

最後になりましたが、今後も多部田康一教授のご指導のもと歯周診断・再建学分野、歯学部的发展に貢献できるよう精一杯努めてまいります。皆様どうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



歯科総合診療科

佐藤 拓実

2021年7月1日付けで助教を拝命いたしました、歯科総合診療科 佐藤拓実と申します。この度は「素顔拝見」の執筆の機会を頂戴しましたので、この場をお借りして自己紹介させていただきます。

生まれは新潟県北蒲原郡加治川村という現在の新発田市の最北部に位置します田園風景広がるのどかな土地です。元々野山を駆け回って遊ぶのが好きなごく一般的な子供で、おにごっこや虫取りをしたり、鉄棒やブランコなどの遊具で危険な遊びもよくやって育ちました。また図鑑を眺めるのが好きな少年でもありました。中でも恐竜図鑑がお気に入り、両親に連れていってもらった長野の野尻湖で、三葉虫の化石を買ってもらったのをよく覚えています。中学までは村の学校に通い、高校は県立新発田高校に進学しました。小中高と学級委員を任されることが多く、友達と先生の板挟みにあうのがひどく居心地悪く感じることも多くありましたが、その経験が現在の自身の性格に色濃く影響を与えているのかなと最近は考えるようになりました。

大学は東京医科歯科大学に進学し、全国津々浦々から集まった多様な方々と面白可笑しい日々を過ごすことができました。大学では男子バレー部に所属し、初心者ながらセッターを志望するというなんとも無謀な挑戦を行いました。その所為とは思いたくないですが、部活中に足の骨を折ったり、アキレス腱を切ったり、ぎっくり腰になっ

たりと怪我には散々泣かされました。今でも正座はつらいです。怪我を乗り越えたからというわけではないですが痛みや苦しみには強い自信があります。単に鈍感なだけかもしれません。

大学を卒業すると故郷の新潟に戻り、新潟大学医歯学総合病院歯科医師臨床研修プログラムAで臨床研修を行い、1年レジデントで歯科総合診療部に残りました。この2年間で様々なことを経験させていただき、一転東京の開業医に就職するわけですが、なんやかんやあり（いろいろと苦い経験もしました）歯学教育研究開発学分野にて大学院を修了させていただき、現在に至ります。

以前の歯学部ニュースでも書きましたが、大学生のころから大学院には進学しないと思っておりましたがなんやかんやで院も卒業し、教職に就いているというのもなんと自分らしいなと思う次第です。かれこれ10年ほど新潟大学にお世話になっているわけですが、歯科総合診療科という場所柄先生方や学生にはあまり印象に残っていないと思われる。今後は臨床実習・臨床研修などでお世話になるかと思ひます、拙いながらも新潟大学に貢献できるように精進いたしますので、先生方、学生のみなさんこれからもどうぞよろしくお願いします。



顎顔面口腔外科 病院専任助教

隅 田 賢 正

顎顔面口腔外科学分野の隅田賢正と申します。スミダではなくスミタ、賢正と書いてヨシマサと読みます。“スミタヨシマサ”です。よろしくお願いします。自分のことについて書くという、なかなか珍しい機会をいただきましたので、少々書いてみようと思います。

生まれは佐渡市、育ちは新潟市です。一年の浪人を経て東京歯科大学に入学し、部活（バスケット）とバイトばかりの学生生活を経て、2013年に臨床研修歯科医として新潟大学に入職しました。2014年に顎顔面口腔外科に大学院生として入局し、その後、基礎研究を口腔病理学分野に参画させていただき学位を取得。研究と並行して病理診断業務

も行わせていただきました。大学院卒業後は長岡赤十字病院、新潟中央病院と2年間の関連病院勤務を経て、2020年より顎顔面口腔外科医員として復学し、2021年より病院専任助教を拝命しております。

唐突ですが、佐渡市というと大抵の人は「新潟の上にある島ね」くらいの印象しかないと思いますが、実は全周200kmもある大きな島で、毎年佐渡を周回する自転車イベントやトライアスロンが行われたり、“アースセレブレーション”“さどの島銀河芸術祭”などといったフェスが行われたりと島全体でイベントを盛り上げる気概のある土地です（“さどの島銀河芸術祭”はDOMMUNEというネットラジオが協賛で入っており、ご自宅でも楽しめますので是非チェックしてみてください。いいフェスですよ）。しかしながら、なんといっても今年は佐渡金山が世界遺産に推薦が決まったことが佐渡の一大ニュースと言えます。まだ正式に世界遺産と決まったわけではありませんので、正式に世界遺産になり混んでしまう前に訪れておくことをお勧めします。とにかくいいところですよ佐渡は。魚釣りにもおすすめです。

現在の仕事としては、大学院時代に口腔癌の研究と病理診断業務にあたっていたこともあり、一般的な口腔外科診療に加え、口腔癌治療を中心として日々の業務にあたっています。癌治療の基本は手術で切除治療を得ることであり、その補助として放射線治療、抗癌剤治療という印象をお持ちの方もいると思います。個人的にも、口腔外科医としては手術手技の上達や経験手術の増加に目を向けがちではありますが、近年では分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬、粒子線治療の保険収載や、遺伝子パネル検査を用いた癌個別化医療が現実的となってきていることから、手術だけに囚われず治療の選択肢を幅広く学ぶことが必要であると痛感しております。口腔癌という、患者様の人生にとって大きなターニングポイントとなる病気に携わっているんだということを肝に銘じ、今後も患者様のためとなれるよう日々の臨床に邁進する次第です。以上、乱文・駄文となりましたが、私の素顔紹介とさせていただきます。今後ともよろしくお願いします。



歯科放射線科

高 村 真 貴

令和3年6月1日付で歯科放射線科の助教を拝命致しました高村真貴と申します。この度、歯学部ニュース「素顔拝見」の執筆機会を頂きましたので、この場を借りて自己紹介をさせていただきます。

出身は長野県の松本市です。松本市と聞いてどのあたりかイメージが湧かない方も多いかと思いますが、概ね中央部とイメージしてもらえればいいかと思います。内陸出身なため、新潟に来た最初の年の冬には風の強さに驚かされました。新潟に来てから10年以上経ちますが、いまだに風の強い冬の朝は億劫に感じてしまいます。余談ですが、本学歯学部は長野県出身の先生方も多く、例年開催される長野県人会は大いに盛り上がります。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の流行拡大により大人数が集まらない状況が続いており、コロナ禍の終息を願うばかりです。

私個人の話に戻しますと、46期生として本学歯学部に入學しました。学生時代の思い出と申しますと、水泳部に所属し、夏も冬も関係なく西海岸公園の市営プールに通っていたことでしょうか。大きな成果をあげることはできませんでしたが、オールデンタルや東医体の応援のために南は鹿児島、北は札幌まで旅行したことを含め、貴重な経験ができたとなつかしく思います。現在ではすっかり泳ぐ機会もなくなってしまい、当時の自分の情熱にあきれるばかりです。代わりに最近では走ることに目覚め、暇をみつけては信濃川の河川敷をマイペースに走っています。同じレーンをひたすら往復する水泳とは異なり、景色が変わっていくところが新鮮です。特に夜中のフェリー乗り場の周辺はお気に入りの景色です。

歯学部卒業後は歯科総合診療部での臨床研修、顎顔面放射線学分野の大学院を経て現職へと至っております。大学院時代から口腔癌の画像診断をテーマに研究を行っております。学位研究では舌癌の画像診断について、CT・MRI・超音波と病理組織像との比較を行いました。口腔癌の画像診断では、実際の癌の大きさよりも画像が過大、あるいは過小評価していることが珍しくありません。癌のどのような特徴が画像に影響を与えるのか、複数の画像検査結果をどのように評価していくか等、これからも検討していきたいと思えます。

助教を拝命してからは大学院生時代とは異なり、研究に加え臨床・教育の機会も頂くことが多くなりました。放射線科の仕事に関しては、診断レポートの見落としによる医療事故やテレビドラマ等により一般の方々にもその仕事内容が認知されてきているように思います。歯科放射線科の仕事も例外ではなく、歯科領域だけでなく隣接する領域の知識も求められるようになってきています。まだまだ学ぶことも多く、勉強不足を痛感する日々ではありますが、やりがいを感じさせていただいております。

今後も研究・臨床・教育を通して本学歯学部の発展に貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



予防歯科

皆 川 久 美 子

こんにちは。2021年6月より、予防歯科の助教を拝命いたしました皆川久美子と申します。この度、「素顔拝見」を執筆する機会をいただきましたので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

出身は茨城県の筑西市（旧下館市）ですが、母が新潟市出身で里帰り出産をしたため、こちらの

新潟大学病院で生まれました。自分が誕生した場所で仕事をしているという事実に、感慨深い気持ちになることもあります。

実家はバスが1日1本、しかも平日のみしか運行していないほどの田舎でしたので、新潟市での生活は快適そのものでした。5年ほど前から主人の実家のある加茂市に住むことになり、通勤・利便性・雪のありとあらゆる面でQOLの著しい低下を招いたものの、主人と主人の家族に助けをもらいながら2人の息子達を育てております。息子達は、主人そっくりの長男が小学1年生（6歳）、私そっくりの次男が年少（3歳）で、性格から食の好み、服の好みまで全く違うため、「男子2人でコスパ最高」という期待は大幅に裏切られました。もともと子供が好きな性分ではなかったので、長男を産んだ次の日には「仕事行きたい」と考えるほどに育児が大の苦手でしたが、周りの方々に支えていただきながら今日まで育ててくることが出来ました。2度の育休と産休、時短勤務にも拘わらず、予防歯科に籍を残していただき、今回助教に任命いただきましたことに、宮崎前教授・小川教授・葭原教授・そして医局員の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、研究については『口腔と全身との関係』という大きなテーマの元、様々な研究に関わらせていただきました。入局当初、上級医の先生方が「歯周病を治せばだいたいなんでも治る」と（冗談で）仰っていたのが大変印象的で、あの言葉があったからこそ私はこんなに長い間予防歯科と関わっているのかもしれませんが。余談ですが、昨年度はコロナワクチンを接種してから1年間、気管支炎と肺炎に罹患し、階段も登れず、深呼吸も出来ず、生きているのが精一杯という生活を送っておりました。当時はコロナと忙しさと体調不良を理由に歯のメインテナンスも怠っておりましたが、最近は歯のクリーニングにも行けましたし、体調も回復傾向にあります。「歯周病を治せばだいたいなんでも治る」は、あながち嘘ではないかもしれません。

最後になりましたが、新潟大学そして予防歯科学分野に少しでも貢献できるよう、微力ながら頑

張っていきたい所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



歯周病科

佐藤 圭 祐

2021年9月1日付で医歯学総合病院歯周病科の助教を拝命いたしました、佐藤圭祐と申します。

出身は新潟市西蒲区（旧西蒲原郡西川町）で本学43期卒です。最近でこそ「そら野テラス」という観光名所がありますが、もともとは田んぼ以外になにもないのどかな田舎町になります。たいへん方言がキツイ地域でもあり、現在も新潟弁を使いこなせることが私の自慢になります。（ちなみに西川地域には「西川弁大全集」という方言の辞書も存在します。機会がありましたら是非手に取っていただけると面白いと思います。）翻訳アプリを使用することでたいていの言語はコミュニケーションをとることができる昨今ではありますが、新潟弁に関しては百戦錬磨のアプリでも認識してくれません。外来で「はがやめる」患者さんや「ひゃっこいみずがしょむ」患者さんが来院された場合でも、「なんぎでしたねえ」と言って治療をすることができます。言葉というものは地域医療を行う上で重要なツールのひとつだと思います。もしも患者さんの新潟弁がわからない場合は、私を翻訳アプリとして使用してください。

高校卒業後、本学14期卒で開業医をしている父の影響をうけて新潟大学歯学部に入學しました。「二世のサラブレッド」としての期待を裏切り続け、いつまでも「親の七光り」でなんとか歯科医師になることができました。10歳の時にバスケットボールと出会い、中学・高校・大学とバスケット部に所属していました。現在でも医療従事者で構成される社会人チームに所属させて頂き、年2回の市民戦にでております（コロナ渦でここ数年は大会自体も中止となっておりますが…）。バスケット

通じて多くの人との繋がりを実感することができます。今年で34歳となり体力的に厳しいところではありますが、怪我に注意しながらもう少し現役プレイヤーでいたいと思います。

大学卒業後は新潟大学医歯学総合病院にて臨床研修を行った後、現在も所属している歯周診断・再建学分野の門戸をたたきました。大学院では、歯周病と全身疾患の関連メカニズムについての研究を行い、博士（歯学）を取得すると共に、臨床

においては歯周病認定医を取得することができました。現在は多部田教授のもと臨床・研究・教育の3本柱で仕事をさせていただいております。教員となり仕事が大変と思うこともありますが、家族（妻と子供2人）の支えによりなんとか頑張ることができています。最後に、新潟大学歯学部および歯周診断・再建学分野、病院歯周病科の発展に少しでも貢献できるよう日々邁進していく所存です。今後ともよろしくお願い致します。



肺炎球菌感染時に好中球から漏出するエラスターゼは免疫分子HLAクラスⅡを分解する

微生物感染症学分野 土 門 久 哲

はじめに

誤嚥性肺炎という病気をご存じですか？ 唾液などと一緒に口の中の細菌が肺に流入（誤嚥）して起きる肺炎の事で、歯科に関連の深い病気です。厚生労働省発表の2021年人口動態統計によると、誤嚥性肺炎はわが国における死因の6位であり、年間約5万人がこの病気で亡くなっています。食べ物を飲み込む嚥下機能の低下した高齢者に発症しやすく、高齢者における肺炎の70%以上が誤嚥性肺炎であると報告されています。したがって、超高齢社会を迎えた今日において、誤嚥性肺炎に関する基礎研究を遂行することは重要であると考えます。本稿では、肺炎の重症化に関する最新知見について紹介いたします。

研究の背景

誤嚥性肺炎の原因菌の一つとして、肺炎球菌が挙げられます。肺炎球菌に感染すると、免疫細胞である好中球が肺に大量に集まり、菌を取り込

で分解・殺菌します。一方、肺炎球菌は毒素を放出することで好中球を破壊し、好中球内部からエラスターゼと呼ばれる酵素を漏れ出させます。通常、エラスターゼは、細菌の分解に関与する防御因子ですが、本酵素が過剰に漏れ出ると、ヒトのタンパク質をも分解し、肺組織を傷害してしまうことを以前の研究で明らかにしました（図1）。本研究では、エラスターゼが肺炎患者の免疫能に及ぼす影響について解析しました。

研究成果

免疫細胞であるマクロファージは、細菌を取り込んで分解した後、分解産物をHLAクラスⅡと呼ばれる分子の上に提示します。その結果、別の免疫細胞であるTリンパ球が活性化して免疫が誘導されます。しかしながら、マクロファージにエラスターゼを添加すると、同細胞のHLAクラスⅡ分子が分解されることを明らかにしました（図2）。

さらに、肺炎球菌性肺炎を誘導したマウスにお

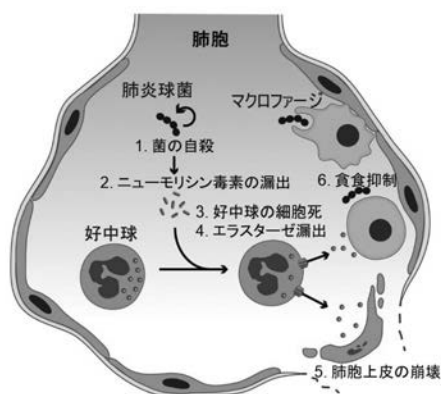


図1 エラスターゼの漏出と肺傷害 (Domon *et al.*, Sci Rep. 6: 38013, 2016. を改変)

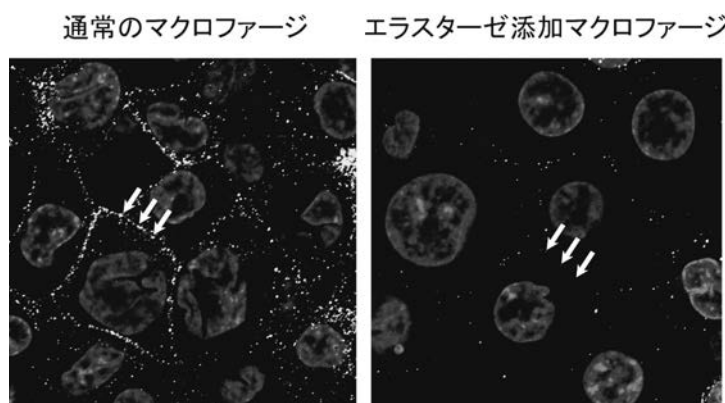


図2 マクロファージにエラスターゼを添加した際のHLAクラスⅡ発現 (矢印；白点部)

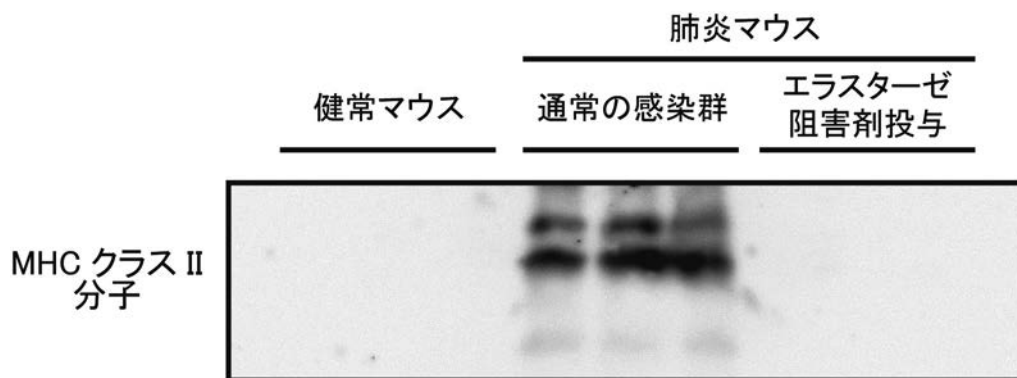


図3 肺炎マウス肺胞洗浄液中へのMHCクラスII分子の流出（黒バンド）

いて、MHCクラスII分子（マウスにおけるHLAクラスII分子の名称）がエラスターゼにより分解され、肺胞中に流れ出すことを明らかにしました（図3）。また、肺炎マウスにエラスターゼ阻害剤を投与することにより、MHCクラスIIの分解は抑制されました。

おわりに

肺炎球菌は、① 毒素を放出することで、② 好中球の細胞死とエラスターゼの漏出を誘導し、③ HLAクラスIIなどの免疫分子を分解する結果、肺炎患者さんの免疫能を低下させる可能性が示唆されました。現在、当研究室ではこれら各ステップに対する阻害物質を探索しながら、肺炎の新たな治療法の開発に向けて研究を行っています。興味を持たれた学生さんは是非見学にいらしてください。

本論文の執筆にあたり、寺尾教授をはじめとす

る共著者の先生方にご指導・ご協力いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。本研究はJSPS科研費（JP20K21671、JP19H03828、JP19K22706、JP20K09903、JP20H03858）、小林財団研究助成および武田科学振興財団研究助成の支援により実施されました。

紹介論文情報

タイトル：

Proteolytic cleavage of HLA class II by human neutrophil elastase in pneumococcal pneumonia.

著者：

Domon H, Maekawa T, Isono T, Furuta K, Kaito C, Terao Y.

掲載誌：

Scientific Reports

doi：10.1038/s41598-021-82212-5.

女性研究者開花プラン報告

「女性研究者開花プラン支援事業」に思うこと

医歯学総合病院 歯の診療科
吉 羽 永 子

文科省の科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に新潟大学が採択され、各部署の女性研究者の上位職登用と育成を支援する本プランが開始されました。このプランに歯学部長の前田先生よりご推薦いただき、昨年度「桜コース」に採択していただきました。「ダイバーシティ（多様性）」なのに女性だけ？と思われる方も多いかもしれません。多様性と包括性を目指した研究や技術開発が求められる中、日本のジェンダーギャップ指数（経済・教育・健康・政治的発言力における男女差の数値）は世界156か国中120位の現状があり、女性の底上げを支援する必要があります。そもそも「男性研究者開花プラン支援事業」なんて、わざわざ思いつく人はいないでしょう。社会のための大学として機能するためにも、ダイバーシティの概念が広く浸透していけばと思い微力ながら執筆させていただきます。育児と仕事の両立に不安を感じ出産に踏み切れない方々、毎日綱渡りで育児と仕事を続けている皆さん、私もそういう時代を通り抜けあと数年で還暦を迎えます。

ある生命保険会社から「年齢と仕事に対するやる気度」に関する報告がされ、男性のやる気度は入社時をピークに緩やかに下降する一方、女性には2つのピークがあります。一つは入社時、もう一つは40代後半、そうです、子育て卒業時です。ここから十数年、再び仕事に没頭できる時期がきます。本当に快適です。このタイミングで前田先生からお話をいただいたのも幸運でした。本プランでは、国内外へ留学することで予算がつかまず。当時私は「ラミニンアイソフォームがマクロ

ファージの発現型に影響を及ぼす」ことに気が付き、ラミニンの研究で世界をリードしてきた大阪大学蛋白質研究所の関口清俊先生だったらどの様にこのテーマに取り組む…？と考えている時期でもありました。従って、共同研究者でもある前田先生からのお誘いは、本当に渡りに船でした。

関口先生は数年前に退官され同研究所にマトリクソーム科学（ニッピ）寄付研究部門を設立し、今なお素晴らしい研究をされています。私が数年で還暦を迎えることを告げると、「年齢なんか関係ありません！研究が楽しいと思えるうちは現役で続けられますよ!!」とのご返事をいただき、留学先でのホストを快く引き受けてくださいました。2021年度大阪大学蛋白質研究所拠点事業にも採択していただき、正式な共同研究員となりました。関口先生とは、実験のデータについて頻繁にメールでやりとりをしていますが、その最後にはウィットに富む励ましのお言葉が添えられています。しかし、一度たりとも「頑張ってください」とお書きになったことはなく、やはり心から感服できる先生だと感じております。今後はこの事業をきっかけに、新潟大学にも恩返しができるよう精進して参ります。

最後になりましたが、本プランを遂行するにあたり多様な面からサポートしてくださっているう蝕学分野の皆様、高度口腔機能教育研究センターの前川知樹研究教授、同センター長であり歯学部長の前田健康教授、歯学部総務係の方々、新潟大学ダイバーシティ推進室の皆様、そして大阪大学蛋白質研究所の関口清俊教授に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

女性研究者開花プラン〈桜プラン〉報告

硬組織形態学分野

依 田 浩 子

この度、本学ダイバーシティ推進室による女性活躍推進の支援事業である「女性研究者開花プラン」に歯学部取り組みが採択され、その育成対象の1人として研修を受けさせていただく機会を得ましたので、ご報告いたします。

本事業は、文部科学省の科学技術人材育成費補助事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」の助成によるもので、女性研究者の研究力向上と上位職へのキャリアアップを支援することを目的として、新潟大学で新たに創設された「教員の中長期研究派遣実現支援制度」になります。3段階の育成プラン（桜プラン、桃プラン、梅プラン）に基づき、海外派遣や国内留学など、一定期間集中して研究活動などの自己研鑽に励む機会を提供するという趣旨の制度です。

今回、私は「桜プラン」の育成対象として、約10カ月間の研修を受けさせていただきました。当初の計画では、韓国・延世大学歯学部での海外研修を予定していたのですが、新型コロナウイルス感染症の拡大により海外渡航が困難となったことから、先方との定期的なオンラインミーティングによる研修に切り替えるとともに、国内留学に変更することになりました。国内でも急激な感染拡大の時期と重なってしまい、県外移動を自粛せざるを得ない状況が続きましたが、ようやく令和4年1月11日から1カ月間、岩手医科大学歯学部発生生物・再生医学分野の原田英光教授の研究室に

て研修を受けることができました。研修先では、歯の幹細胞に関する共同研究を進め、先端的な研究技術や知識の習得に加え、大学院学生の研究指導の方法や研究室のマネジメントの仕方などについても学ばせて頂き、今後のキャリアアップに必要な知識や研究力を修得することができました。また、本研修に関連して、韓国・延世大学歯学部および岩手医科大学での大学院特別講義の機会を得たほか、令和4年3月に開催された日本解剖学会総会にて、今回の受入研究者である原田教授とともに学術シンポジウムを企画し、本研修で遂行した歯の幹細胞に関する共同研究成果を発表することができ、自身の今後の研究発展につながる大変有意義な研修となりました。

今回の支援事業を通して、自分自身のキャリアアップのみでなく、上位職を目指す女性研究者のロールモデルの一つとして、女性研究者が教育研究活動と生活を両立しながら、能力を存分に発揮できる歯学部での仕組みづくりに、微力ながら貢献させていただきたいと考えています。

最後になりますが、今回の貴重な研修の機会をお与えいただいた前田健康歯学部長、国内研修に際し多大なご協力をいただいた歯学部事務の皆様、コロナ禍での研修を受入れてくださった岩手医科大学・原田英光教授、研修期間中の業務をサポートいただいた硬組織形態学分野の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

女性研究者開花プラン報告

高度口腔機能教育研究センター
山 田 友里恵



本学の教員中長期研修派遣実現支援制度である「女性研究者開花プラン」に採択されましたのでご報告いたします。本プランは、上位職へのキャリアアップに意欲のある女性研究者に対し、一定期間集中して教育研究活動等の自己研鑽に励む機会を通じて、「女性研究者を育成する仕組み」作りを計画実行する部局に対し、女性研究者の研修（国際的な共同研究の推進などを目的とした、海外派遣、国内留学、研究専念等）に係る研究費、旅費、滞在費等を助成します（ダイバーシティ推進室、本事業の趣旨より抜粋）。私は現在アメリカセントルイスにいますWashington University in St. Louisに研究留学をしており、本プランにより留学費用をサポートしていただきました。

留学先では、Charcot-Marie-Tooth disease（以下CMT）の疾患モデルラットを用いて、病態解析及び疾患発症のメカニズムについて研究しています。CMTは感覚・運動神経の障害が起こり、膝下の筋肉に筋力低下と萎縮が起こる遺伝性神経変性疾患です。疾患の発症メカニズムが分かっておらず、進行を止める治療法が存在しない病気です。私たちは、CRISPR-Cas 9 ゲノム編集システムを用いて、世界で初めてヒト患者と完全に同じ遺伝子変異をもつCMTモデルラットを作成

しました。このラットを解析したところ、脚の下方にいくにつれ神経変性が重篤であり、足の末端部の神経筋接合部では非常に強い萎縮が認められました。さらに、病的ミトコンドリアが神経軸索内に蓄積し、それが神経の末端にいくほど顕著であることを発見しました。本研究によりCMTの新たな病態が明らかになり、新規治療法の開発の一助となることが期待されます。

日本の女性研究者は年々増加していますが、全研究者に占める割合は20%未満とOECD加盟国の中では最低の水準です。日本では女性研究者はあまり身近でないかもしれませんが、mRNAワクチン開発の立役者となったカタリン・カリコ氏や、上記のCRISPR-Cas 9 技術の開発でノーベル賞を受賞したエマニュエル・シャルパンティエ氏、ジェニファー・ダウドナ氏など、世界には多くの女性研究者が活躍しています。本プランの支援を得て、集中して研究活動に取り組むことができました。こちらで学んだことを、さらなる応用研究へと発展させることを目指します。また、女子学生のロールモデルとなり、彼女たちが研究者を目指したり、科学技術分野で活躍するきっかけを作れるような教員になれるよう精進いたします。

最後に、ご指導いただきました前田学部長、Washington UniversityのJeffrey Milbrandt教授にこの場をお借りして御礼申し上げます。

歯学部教育におけるデジタルデンティストリーの導入について

包括歯科補綴学分野 教授 小 野 高 裕

このたび新潟大学歯学部では、学生教育用のCAD/CAMシステムを導入し、模型実習、臨床予備実習、臨床実習の各段階で体験することにより、卒業してスムーズにデジタルデンティストリーを使いこなせる歯科医師を養成するための教育基盤が整いました。ここでは、その概要についてご紹介いたします。

まず、令和4年4月に模型スキャナーおよび教育用デスクトップパソコン12台からなる教育用CADシステムがE棟1階のアライアンス室に設置されました。続いて、7月には口腔内スキャナー3台、ミリングマシン1台、3Dプリンタ1台が追加導入されました。これらの機器の導入により、CADソフトウェア上で歯冠修復物（インレー）や歯冠補綴物（クラウンやブリッジ）はもちろんのこと、全部床義歯や部分床義歯のメタルフレーム、インプラントのカスタムアバットメントなどあらゆる口腔内装置を設計し、CAM機器によって製作するという、一連のデジタルワークフローを体験できる環境が整いました（図1）。

以上のシステムの各実習への導入は今年度2学期から来年度にかけて本格化することになりますが、当分野では今年度1学期の4年次の全部床義

歯模型実習（欠損補綴学Ⅰ）において、同システムを用いたCAD実習を試行しました（図2）。この実習は、模型実習と並行して石膏模型の3Dデータ化とCADソフトウェア上での人工歯排列のシミュレーションを行う内容となっており、学生はモニタ上で石膏模型を透過させたり、さまざまな角度から輪切りにしたりして、見たいものだけを好きな角度から観察しながら、排列する人工歯の角度を自由に変えて上下の咬合接触状態を確認することができます。そのため、義歯の形態と機能の理解がより容易になると期待されますが、その効果は今後検証していく必要があるでしょう。

今後10年の間に修復・補綴治療のいわゆるフルデジタル化が進み、現在は難しいとされる義歯の印象もスキャナを用いて採得できるようになると言われています。学生だけでなく研修医や大学院生を対象としたCAD/CAM修練コースも設けてデジタルデンティストリーに触れる機会を増やすことにより、本システムが新潟大学歯学部全体のデジタルデンティストリーのスキル向上に寄与することが期待されます。

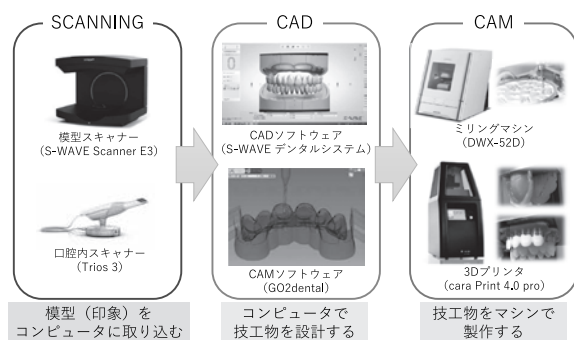


図1



図2

リニューアル・オープンした医歯学図書館へ行こう

医歯学図書館長・口腔病理学分野 教授 田 沼 順 一

令和4年4月1日付けで、新潟大学医歯学図書館長及び新潟大学図書館副館長の辞令を拝命いたしました、口腔病理学分野・教授の田沼順一でございます。

今回、令和4年5月25日に医歯学図書館は、リニューアルオープンの記念式典が開催され、無事にグランドオープンを迎えられましたことをご紹介しますとともに、大学職員や教員関係者の皆様に熱く御礼申し上げます。またお陰様をもちまして、4月7日にプレオープンの開館をしておりますが、4月・5月の月間入館者がともに4,000人を超えることから、皆さんがどんなに待ち焦がれていた施設であり、新潟大学に必要かつ重要な施設であることを改めて痛感しております。(図1)

ところで新潟大学医歯学図書館は、今年百周年を迎えることをお気づきでないと思いますが、1922年(大正11年)官立新潟医科大学が発足された際、旭町通に設置されたもので、大正ロマン期の図書館として創建された建物として開館しました。

現在の建物は22年前(平成12年)に、隣の放送大学と同時に増改築がされていますが、日々更新

する学習環境への対応が十分にできなくなりつつあり、これらを至急改善する必要性や新たな交流スペースの整備を目的として、改修工事が計画されたのであります。

現在、歯学科・口腔保健学科の学生にとって学習環境のあり方が極めて多様な時代となり、歯科医師・歯科衛生士・社会福祉士国家試験の対策、PBL・TBLなどの問題解決型のグループ学習などに対する、多くのスタイルの学習空間が求められております。そこで、今回の改修工事のコンセプトは、個人用の静謐な学習室、24時間オープンの学習エリア、能動的学習のためのラーニング・コモন্ズの整備等であります。(図2)

さらに小規模の学会用にセミナー室も新たに整備され、本大学の研究企画室URAによる外部資金獲得の懇談会の会場としても利用され、リサーチ・コモন্ズとして研究支援の場となるように、協同をしていきたいと思っております。(図3)

特に国立・私立大学では図書館24時間開放が当たり前になっておりますが、新潟大学医歯学図書館でも極めて多くの学生から要望があった24時間の学習エリアが、この度1階正面玄関の右手に設置されました。この施設内には、机や椅子はもち



図1 2022年リニューアルした医歯学図書館の外観



図2 1階フロアA：24時間学習エリア、B：図書館入り口、C：ライブラリーサロン



図3 2階フロア A：ワーキングエリア、B：ソファースペース、C：カウンター席、D：セミナー室

ろん、このスペース専用のトイレや自動販売機も併設され、利用者の利便性を考えた設計であります。さらに入口左手にはライブラリー・サロンを設け、卒業生や地域の方々との交流スペースとして設置されました。しかしこのコロナ渦中では、対面の交流ができないため、新たな利用を現在考えております。2階から3階にかけても、学生の自主的・共同的な学習に活用できるワーキングエ

リアやラーニング・コモンズ、サイレント学習室等の様々な学習環境を用意しています。(図4)

最後に、様々な歴史的出来事が生じてきた時代を乗り越えて愛される医歯学図書館の施設へ、歯学部の皆様には是非とも足を運んで頂き、今回リニューアルされた医歯学図書館の魅力を感じ取ってみてください、スタッフ一同お待ちしております。

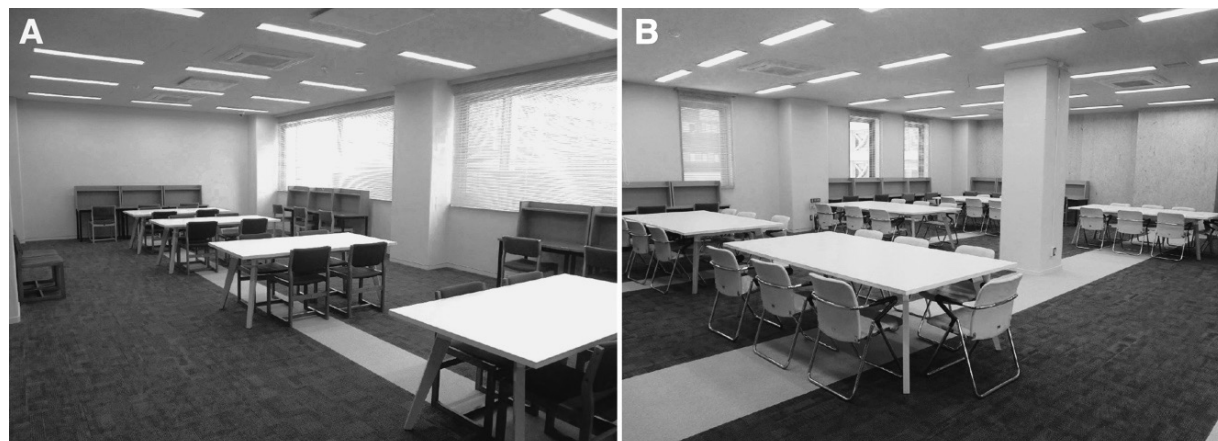


図4 3階フロア A:クワイエット学習室、B:サイレント学習室



新潟歯学会報告

令和4年度 第55回新潟歯学会総会報告

令和4年度新潟歯学会集会幹事
小児歯科障がい者歯科
大島 邦子

令和4年度 第55回新潟歯学会総会が4月16日（土）に開催されました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のために新潟医療人育成センターにて実施し、会場参加者は演者と評議員に限定させていただきました。

総会では、前田健康会頭のご挨拶の後、会務報告、昨年度の会計決算報告・会計監査報告がなされ、今年度の事業計画案と予算案が承認されました。また、2021年度の新潟歯学会賞は笹 杏奈先生（摂食嚥下リハビリテーション学分野）、新潟歯学会奨励賞は堀 頌子先生（包括歯科補綴学分野）に授与されました。おめでとうございます。

総会議事に続き、午前10時40分から4題の一般口演が行われ、活発な討議がなされました。

当日は、風も強く雨模様のあいにくのお天気で

したが、学外3名を含む56名（Zoom参加12名）の参加がありました。座長をお引き受けくださった先生方、演者および参加された皆様、ありがとうございました。

令和4年度第2回例会は11月12日（土）に開催予定ですが、7月9日に行われました第一回例会に引き続き、以前のように歯学部講堂で行う予定です。ただし、新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、開催場所等が変更となる可能性もありますので、詳細は新潟歯学会ホームページをご覧ください（<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/nds/index-j.html>）。

また、引き続きZoom参加も受け付けておりますので、ご希望の方はご連絡ください。



写真1 開会の辞 前田歯学部長



写真2 新潟歯学会賞授与 笹 杏奈先生（左）と前田歯学部長



写真3 新潟歯学会奨励賞授与 堀 頌子先生（左）と土門准講会幹事

同窓会だより

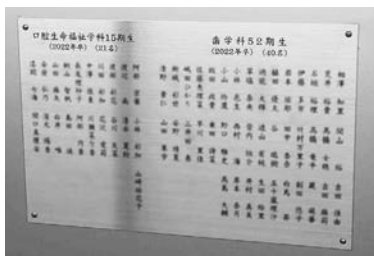
同窓会だより

副会長 野 内 昭 宏

前回の「同窓会だより」掲載から約半年。COVID-19への対応を考慮しながらの活動ではありますが、それでもこの間、色々なことがありました。ここでは慶事を中心に触れていきます。

【3月】それはお別れの時期であります。そして、それは新しいステップに進むための準備期間でもあります。

・歯学科52期生40名、口腔生命福祉学科15期生21名の皆様の卒業にあたり、ネームプレートを作製して4階渡り廊下に掲示しました。



ネームプレート

・新潟大学医歯学総合病院准教授でいらっしゃった鈴木一郎先生（歯学科11期）が定年退職されるにあたり、お祝いを贈呈しました。

皆様方のご多幸をお祈りします。



鈴木一郎先生

【4月】嬉しい知らせと共に新年度のスタートです。

・春の叙勲で、3人の同窓生が受章されました。

色川卓男先生（歯学科1期、瑞宝双光章）

野溝正志先生（歯学科1期、瑞宝双光章）

榎田中外先生（歯学科5期、旭日双光章）

同窓会からは、祝電とチタン製カップ（made in Niigata）をお贈りしました。おめでとうございます。

【5月】春の学会シーズンです。

・2つの講座が全国規模の学会を開催するにあたり、同窓会から支援金を差し上げました。

組織再建口腔外科学分野 日本顎変形症学会

包括歯科補綴学分野 日本老年歯科医学会

どちらも盛会とのことでした。



支援金を受けとられる
小林教授



支援金を受けとられる
小野教授

【7月】人と人との繋がり、さらに強い絆を。

・17日（日）、同窓会創立50周年記念事業が行われました。記念事業実行委員会一同、心を込めて準備してきました、成功裏に終えることができました。

詳細については、項を改めます。

今まで50年間繋がってきたバトンは、新たな50年に向けて繋げていきます。困難な時代においても、より一層勇気と知恵を持って未来を切り開いていきたいと思ひます。

新潟大学歯学部同窓会創立50周年 記念講演会・記念式典・記念祝賀会 ～人と人が繋がり、さらに強い絆を～

会長 有 松 美紀子
50周年記念事業実行委員長・副会長
佐藤（松山） 順子
副会長 野 内 昭 宏

平素から、同窓会へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

令和4年7月17日（日）にANAクラウンプラザホテル新潟にて「新潟大学歯学部同窓会創立50周年記念講演会、記念式典、記念祝賀会」が盛会裏に終了しましたので、ご報告申し上げます。

コロナ禍の中、ご多用にもかかわらず、北は北海道、南は九州、沖縄という遠方からもたくさんの方々にご参加頂きました。心から感謝申し上げます。

コロナ感染者が増加する中で、開催していいのかどうかは大変悩みました。しかし、開催決定後は佐藤実行委員長の強力なリーダーシップのもと、9名の実行委員が一枚岩となり、準備に最善を尽くしてきました。ホテル側の協力の下、強力な感染対策を徹底できたのは幸いでした。

午前10時から記念講演会を開催しました。演者は、作家の守屋 淳氏、演題は『渋沢栄一と「論語と算盤」に学ぶ』でした。

守屋氏は、今年初めに亡くなられた佐伯万騎男教授（歯科薬理学）の高校時代の同級生だった縁で、この講演が実現しました。佐伯教授には感謝するとともに、心から哀悼の意を表します。

渋沢栄一は「日本資本主義の父」とも言われ、昨年大河ドラマの主人公であり、近々発行される新一万円札の顔にもなっています。大変興味深く、また我々医療人にも通じる有意義なお話をして下さいました。



講演中の守屋氏

講演会終了後は、ご参集いただいたご来賓の方々と同窓生の皆さま170名ほどで記念写真撮影を行いました。

12時30分から、伊勢みずほアナウンサーの司会で記念式典が開始されました。

会長挨拶の後に、後藤茂之厚生労働大臣からのご祝辞が披露され、続いて、花角英世新潟県知事、堀憲郎日本歯科医師会会長、牛木辰男新潟大学長からもご祝辞を頂きました。



有松会長の挨拶



花角新潟県知事



堀日本歯科医師会会長



牛木新潟大学長

次に同窓会功労者表彰に移り、歴代会長3名と永年勤続者1名を表彰させていただきました。

その後、歯学部差し上げる記念品目録を前田健康歯学部長にお渡ししました。記念品は講堂や大会議室で使用する「ハイブリッド会議システム一式」です。



記念品へのお礼を述べられる前田学部長

最後に近藤副会長の挨拶で記念式典は終了となりました。

14時から祝賀会が開催されました。会長挨拶の後に、中原ハ一新潟市長、松崎正樹新潟県歯科医師会会長、臼杵勇人新潟大学全学同窓会会長からご挨拶を頂き、前田学部長のご発声により乾杯となりました。



中原新潟市長



松崎新潟県歯科医師会会長



臼杵全学同窓会会長

途中、福原達郎名誉会員と、サッカーJ2 アルビレックス新潟の早川史哉選手からの2本のビデオメッセージ、そして歯学部軽音楽部「ライヤーズ」の演奏が披露されました。今回の記念事業のテーマにもつながる「平和・調和」にちなんで、ジョンレノンの永遠のナンバー「イマジン」が演奏された際には会場も最高潮に達し、その興奮も冷めやらぬまま、佐藤実行委員長の挨拶を以て祝賀会はお開きとなりました。



会場全景



さて、新潟大学歯学部は昭和40年に、国立大学歯学部としては東京医科歯科大学、大阪大学に続いて第3番目に設置されました。その同窓会は同窓生の熱い思いにより創立され、先輩からの伝統を愚直なまでに次の世代に繋いできた方々がいることと、大学をはじめとする関連団体や組織、他

大学並びに他大学の同窓会、そして同窓生の方々の支援により、今まで存続してこられたのだと思います。

今後は、持続可能な組織づくりを目指し、会員の才能が発揮できる場としても尽力して参りたいと思います。

2022年度新潟大学同窓会学術講演
を聴講して

大阪大学歯学部歯科保存学教室 歯学科40期生
岡 本 基 岐

40期生の岡本基岐と申します。まず私の背景について少しお話しします。2010年に新潟大学を卒業し、現在の所属機関に約12年在籍しております。母校である新潟大学との関係といえば、毎年届けいただいている同窓会費の納入のため郵便局に行くことや歯学部ニュースを拝読し、お世話になった先輩・同期・後輩の先生方の退職・異動などに思いをはせることでした。また、大学は異なるものの研究機関に所属しているため、新潟大学の先生による学会発表を拝聴することやジャーナルに投稿している論文を査読する機会があります。“自分の所属していた大学で、こんな研究をしているのか”と学生時代には感じることもなかった経験をしています。例えるならば、数年ぶりに教科書や参考書を読んで、知識不足のために理解できなかった内容をやっと理解できた感覚です。

2022年4月23日、新潟大学同窓会学術講演がオンラインで開催されました。そこでは、新潟大学医歯学総合研究科口腔解剖学分野大峽教授より、“形作りの原理を紐解く ～数や形の異常の理解へ～”と題した講演を聴講させて頂き、学生時代に戻った感覚でした。大峽教授のこれまでの研究業績である遺伝子欠失マウスの形質を解析した知見から、主に先天疾患に関連した顎顔面領域の形態異常について、最新の知見を分かりやすく解説いただきました。講演内容から、遺伝子欠失マウスを使った基礎研究を通じて、再生医療などの臨床応用への展開を目指しているという強い決意を感じました。本講演の研究成果の基盤となった遺伝子欠失の技術はノーベル賞を受賞したCRIPER/Cas 9によるゲノム編集技術により、従来よりもノックアウトマウスの作成が短期間に行えるようになってきています。また解析手法も従来の染色法による病理組織学的な解析に加え、組織内の局在を含めた全遺伝子解析手法の発展しており、転機に差しかかっています。学術的な変化が少ない学問の1つと考えられる解剖学において、近い将来大峽教授の主宰される教室から報告される新たな知見が見出し、教科書に新たな1

今回の学術講演は、新潟以外の西日本などの地域からも参加されているとお聞きしております。地域に縛られることなく同窓生に最新の母校の学術的知見を届けてくださる、同窓会の活動に頭が下がる思いです。オンデマンド配信も実施され、地域だけでなく時間の制約も考慮していただき、同窓生にとって最新の知見を得る機会となっています。また講演に参加された同窓生は歯学科卒業生の3期～40期であったとのこと。学生の時に教育を担当していただいた先生方の変わらない



たかはし歯科クリニック 歯学科38期生
高 橋 希

辞書的な意味での「価値」は、「あるものを他のものよりも上位に位置づける理由となる性質、人間の肉体的、精神的欲求を満たす性質、あるいは真・善・美・愛・仁など人間社会の存続にとってプラスの普遍性をもつと考えられる概念の総称。」とされています。つまり価値は、決して価格だけを指すのではなくさまざまな概念（イメージ）の総称であるということです。赤司先生は講演で「国民皆保険制度に組み込まれている以上、国家、国民への価値に立脚しなければ歯科医療としての面としての成長はない」とおっしゃっていました。歯科の価値は歯科だけの考えで決まるの

赤司先生の一語一句に勇気づけられたのと同時に、私の心の中にはある1つの思いが浮かんできました。それは歯科医師という仕事に「誇りを持つ」という思いです。振り返ると20年前の学生時代から、今後の歯科界は暗いという話を聞いて育ってきました。歯科医師過剰という報道があり、歯科医院は、週刊誌でコンビニの数より多いと揶揄され、ワーキングプアと罵られた時代に育った歯科医師は誇りを持てているのでしょうか。多くの若手歯科医師が、それぞれの現場でその価値に気づかず働いているのではないのでしょうか。一般開業医、研究者、病院歯科、大学、歯科医師会、歯科医師連盟、どのような立場であっても一人一人が誇りを持って働くこと、その基準で自分自身を見つめ直すことでよりその価値は高まると思います。

もちろんプライドだけが高くては困ります。しかし誇りを無くした産業に未来はありません。そ

— 68 —

れは誇りを失った国家、国民に未来がないのと同じです。私は、まずこの仕事に誇りをもちたい。そして子供には自信を持って歯科医師という仕事を勧めたい。近い将来、歯科医師、歯科衛生士を子どもたちのなりたい職業NO1にしたいと思っています。

講演の中で赤司先生からはSDGSについてのお話もありました。SDGSに対する私のイメージは「当たり前のこと」を「大きな声で言う。」というものでした。ここで謳われている項目は、常識的な内容であり、誰も批判できない内容です。30年前、小学校の先生に教えてもらったことそのままなのです。それと同じく、超高齢社会、地域包括ケアシステム、医科歯科連携もまた誰も批判できない内容です。今から20年前、大学の講義で聞いたことがある内容でした。しかし、赤司先生のお話を聞いて考えを改めようと思いました。「知っているということとできていること

は違う。その実現のためにあなたは何をしてきたのか。」という問いを突きつけられたように思ったからです。あらゆる問題に若手からの働きかけが必要だと痛感しました。現行のシステムにとられない第3の案をだすこと、それが我々に求められているのだと思います。今までと同じようなやり方をしていて現状の問題が解決するとは思えません。行動して日本独自のモデルを作ること、それを世界に発信することで、いみじくも40年前の日本が「Japan as NO1」と呼ばれていたように「Japanese Dentist as NO1」となる日が来るのではないかと考えています。しかし、NO1を求め、声高に主張するのではなく、控えめであったとしても必要とされる存在であること、水のように社会に行き渡ることが重要だと言うことを忘れません。

歯科の未来は明るく可能性しか感じません。



教 職 員 異 動

学 部

【教員等】

異動区分	発令年月日	氏名	異動後の所属・職	異動前の所属・職
採用	R4.1.1	小 川 友里奈	口腔保健学分野助教	
退職	R4.1.14	佐 伯 万騎男		歯科薬理学分野教授
任期満了	R4.2.28	坂 井 遥		摂食嚥下リハビリテーション学分野特任助手
採用	R4.3.1	QUISPE SALCEDO ANGELA	硬組織形態学分野助教	
退職	R4.3.31	片 桐 涉		組織再建口腔外科学分野准教授
任期満了	R4.3.31	高 波 里 帆		摂食嚥下リハビリテーション学分野特任助手
任期満了	R4.3.31	笹 杏 奈		摂食嚥下リハビリテーション学分野特任助手
任期満了	R4.3.31	山 本 徹		歯科麻酔学分野特任助教
任期満了	R4.3.31	井 上 佳世子		高度口腔機能教育研究センター特任准教授
任期満了	R4.3.31	NAKSAGOON TRAITHAWIT		高度口腔機能教育研究センター特任助教
任期満了	R4.3.31	日 吉 巧		高度口腔機能教育研究センター特任助教
任期満了	R4.3.31	鈴 木 絢 子		高度口腔機能教育研究センター特任助教
任期満了	R4.3.31	北 見 恩 美		高度口腔機能教育研究センター特任助教
任期満了	R4.3.31	LAY THANT		高度口腔機能教育研究センター特任助手
採用	R4.4.1	中 島 麻由佳	歯周診断・再建学分野助教	
採用	R4.4.1	日 吉 巧	高度口腔機能教育研究センター助教	高度口腔機能教育研究センター特任助教
採用	R4.4.1	鈴 木 絢 子	生体組織再生工学分野特任助教	高度口腔機能教育研究センター特任助教
採用	R4.4.1	北 見 恩 美	歯科薬理学分野特任助教	高度口腔機能教育研究センター特任助教
採用	R4.4.1	LAY THANT	高度口腔機能教育研究センター特任助教	高度口腔機能教育研究センター特任助手
採用	R4.4.1	坂 井 遥	摂食嚥下リハビリテーション学分野特任助手	

【事務等】

異動区分	発令年月日	氏名	異動後の所属・職	異動前の所属・職
退職	R3.12.31	阿部 優子		硬組織形態学分野研究支援者
採用	R4.2.1	笠原 由佳	生体歯科補綴学分野事務補佐員	
定年退職	R4.3.31	近藤 正一		医歯学系歯学部事務室長
任期満了	R4.3.31	橋本 真由		包括歯科補綴学分野科学技術振興技術者
任期満了	R4.3.31	安藤 徳子		歯学部事務室総務係事務補佐員
任期満了	R4.3.31	本間 和世		歯学部事務室総務係事務補佐員
任期満了	R4.3.31	中島 はづき		歯学部事務室学務係派遣職員
昇任	R4.4.1	清野 暁	医歯学系歯学部事務室長	財務部財務企画課予算係長
昇任	R4.4.1	中川 滋貴	研究企画推進部産学連携課専門職員	医歯学系歯学部事務室総務係主任
異動	R4.4.1	小野 雅生	医歯学系歯学部事務室総務係	医歯学系総務課会計係
採用	R4.4.1	高橋 泰子	予防歯科学分野事務補佐員	ダイバーシティ推進室技術補佐員
採用	R4.4.1	山田 真子	摂食嚥下リハビリテーション学分野産学連携技術者	
採用	R4.4.1	河内 美帆	硬組織形態学分野技術補佐員	
採用	R4.4.1	吉田 優子	歯学部事務室総務係事務補佐員	
採用	R4.4.1	渡邊 美奈	歯学部事務室学務係事務補佐員	

病 院

【教員等】

異動区分	発令年月日	氏名	異動後の所属・職	異動前の所属・職
採用	R4.3.1	曾我 麻里恵	医療連携口腔管理治療部特任助教	
配置換	R4.3.1	坂井 遥	摂食嚥下機能回復部特任助手	医歯学系（摂食嚥下リハビリテーション学）特任助手
退職	R4.3.31	伊藤 晴江		歯科総合診療科講師
任期満了	R4.3.31	永田 量子		歯の診療科助教
定年退職	R4.3.31	鈴木 一郎		患者総合サポートセンター准教授
採用	R4.4.1	長谷川 真奈	歯科総合診療科講師	歯科総合診療科特任助教
採用	R4.4.1	都野 さやか	歯科総合診療科特任助教	
復職	R4.4.1	大倉 直人	歯の診療科助教	研究休職
配置換	R4.4.1	坂井 遥	医歯学系（摂食嚥下リハビリテーション学）特任助手	摂食嚥下機能回復部特任助手
昇任	R4.6.1	新美 奏恵	患者総合サポートセンター准教授	医療連携口腔管理治療部講師

【看護・診療支援部】

異動区分	発令年月日	氏名	異動後の所属・職	異動前の所属・職
所属換	R3.12.7	藤 野 あかり	東3階病棟看護師	東11階病棟看護師
所属換	R4.3.15	堀 口 航 平	東11階病棟看護師	東3階病棟看護師
任期満了	R4.3.31	藤 野 あかり		東3階病棟看護師
退職	R4.3.31	島 田 直 美		外来（歯科）看護師
任期満了 (再雇用)	R4.3.31	石 井 裕 子		外来（歯科）看護師
育児休業 復帰	R4.4.1	稲 田 綾 子	外来（歯科）看護師	
昇任	R4.4.1	田 中 千香子	西11階病棟副看護師長	東3階病棟看護師
採用	R4.4.1	大 岩 花菜子	東3階病棟看護師	
採用	R4.4.1	関 根 彩 月	東3階病棟看護師	
採用	R4.4.1	山 田 茉 由	東3階病棟看護師	
育児休業復 帰・所属換	R4.4.1	飛田野 奈 美	東11階病棟看護師	東3階病棟看護師
育児休業復 帰・所属換	R4.4.1	藤 巻 麻 未	東7階病棟看護師	東3階病棟看護師
育児休業復 帰・所属換	R4.4.1	堀 舞	腫瘍センター看護師	東3階病棟看護師
所属換	R4.4.1	黒 木 純 子	東6階病棟看護師	東3階病棟看護師
所属換	R4.4.1	桑 原 清 美	東3階病棟看護師	東4階病棟看護師
所属換	R4.4.1	伊 藤 望	東3階病棟看護師	西6階病棟看護師
所属換	R4.4.1	櫻 田 仁 美	高次救命災害治療センター4階看護師	東3階病棟看護師
育児休業 復帰	R4.6.4	水戸部 恵 実	東3階病棟看護師	
任期満了	R4.3.31	横 山 奈 央		歯科衛生部門歯科衛生士
任期満了	R4.3.31	小 島 千奈美		歯科衛生部門歯科衛生士
採用	R4.4.1	小 林 彩 加	歯科衛生部門歯科衛生士	
退職	R4.6.30	藤 石 美 穂		歯科技工部門歯科技工士

【事務部】

異動区分	発令年月日	氏名	異動後の所属・職	異動前の所属・職
定年退職	R4.3.31	岡 田 俊		事務部長
定年退職	R4.3.31	雲 崎 雄 次		管理運営課長
退職	R4.3.31	渋 谷 孝 巳		医事課副課長（診療）
退職	R4.3.31	横 山 康之介		基礎・臨床研究支援課臨床研究係長
配置換	R4.4.1	前 島 一 実	事務部長	徳島大学病院事務部長
配置換	R4.4.1	太 田 耕 治	学術情報部情報企画課長	総務課副課長
配置換	R4.4.1	石 井 薫	管理運営課長	学務部留学交流推進課副課長
配置換	R4.4.1	佐 藤 千 秋	学務部学生支援課専門員	総務課副課長（人事）
配置換	R4.4.1	一 久 真由美	総務課副課長（人事）	人文社会科学系総務課庶務係長
配置換	R4.4.1	村 山 登	総務課専門職員	管理運営課専門職員
配置換	R4.4.1	小 島 貴 幸	総務課総務係長	学務部キャリア支援課キャリア支援係長
配置換	R4.4.1	深 谷 賢 志	経営企画課財務企画係長	経営企画課主任
配置換	R4.4.1	伊 藤 典 興	管理運営課専門職員	医事課医事総括係長
配置換	R4.4.1	青 山 由紀代	管理運営課専門職員（契約企画）	管理運営課薬品材料係長
配置換	R4.4.1	河 田 光 正	管理運営課薬品材料係長	管理運営課主任
配置換	R4.4.1	佐々木 葉	基礎・臨床研究支援課臨床研究係長	研究企画推進部産学連携課地域連携係長
配置換	R4.4.1	田 澤 由紀子	医事課副課長（診療）	総務課総務係長
配置換	R4.4.1	今 村 尊 博	医事課医事総括係長	総務課専門職員

令和4年度歯学部内委員会

令和4年4月6日

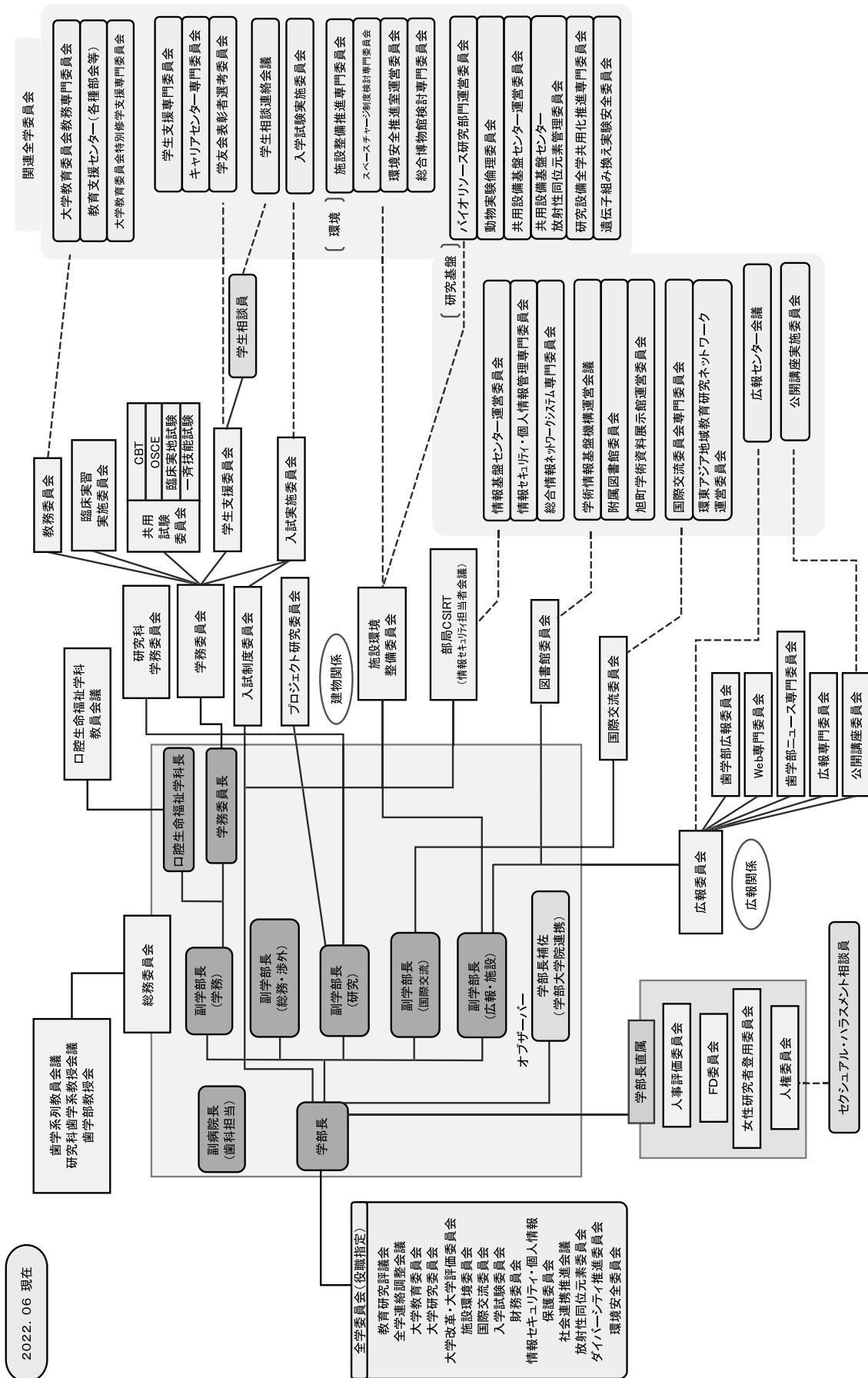
委員会名	氏名	職名	対応する全学委員会	備考
—	前田健康	系列長		任期 R3.4.1～R5.3.31
総務委員会	前田健康	歯学部長・歯学科長		総括
	多部田康一	副病院長		歯科担当
	小野和宏	副学部長・学務委員会委員長・評議員		学務
	大内章嗣	副学部長・評議員		総務・渉外・副学系長
	井上誠	副学部長		研究
	照沼美穂	副学部長・副研究科長		国際交流
	寺尾豊	副学部長		広報・施設
	大峽淳	学部長補佐		学部大学院連携
	葭原明弘	口腔生命福祉学科学科長		
学務委員会	小野和宏	学務委員会委員長	大学教育委員会教務専門委	総括
	井上誠	大学院学務委員会委員長		大学院学務
	吉羽邦彦	入試実施委員会委員長	入試実施委	入試
	山村健介	学生支援委員会委員長		学生支援
	藤井規孝	臨床実習実施委員会委員長		臨床実習
	葭原明弘	口腔生命福祉学科学科長		口腔生命福祉学科
	濃野要	教務委員会委員長		教務
	濃野要	教務委員会委員長		総括
教務委員会	小野和宏			オブザーバー
	林孝文			教育課程（歯学科系）
	大内章嗣			教育課程（口腔生命福祉学科系）
	ステガコ・ロクサーナ			教育課程（口腔生命福祉学科系）
	大峽淳			◎共用試験（CBT）
	長谷川真奈			◎共用試験（OSCE）
	多部田康一	（臨床実地試験 総括）		◎共用試験（診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験）
	吉羽邦彦	（一斉技能試験 総括）		◎共用試験（診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験）
	藤井規孝	臨床実習実施委員会委員長		◎歯学科臨床実習・臨床予備実習総括
	吉羽邦彦			◎口腔生命福祉学科臨床実習Ⅱ総括
臨床実習実施委員会	柴田佐都子			◎口腔生命福祉学科臨床実習Ⅰ総括
	長谷川真奈			歯科総合診療部
	竹中彰治			予防・保存系診療科
	秋葉奈美			摂食機能・補綴系診療科
	大島邦子			小児・矯正系診療科
	齋藤直朗			口腔外科系診療科
	大峽淳	CBT		必要な都度委員を指名
	長谷川真奈	OSCE		必要な都度委員を指名
共用試験委員会	多部田康一	臨床実地試験 総括		必要な都度委員を指名
	吉羽邦彦	一斉技能試験 総括		必要な都度委員を指名
学生支援委員会	山村健介	学生支援委員会委員長	学生相談室相談員・学生相談連絡会議	総括
	依田浩子			歯学科
	小松康高			歯学科
	秋葉奈美			歯学科
	諏訪間加奈			口腔生命福祉学科
	富原圭		学生相談室相談員・学生相談連絡会議	歯学部
	川崎真依子			研究科
学生相談員	山村健介			
	依田浩子			
入試制度委員会	前田健康	学部長（歯学科長）		
	大内章嗣	副学部長		

委 員 会 名	氏 名	職 名	対応する全学委員会	備 考
入試制度委員会	井 上 誠	副学部長		
	葭 原 明 弘	口腔生命福祉学科長		
	吉 羽 邦 彦	入試実施委員会委員長		
	小 野 和 宏	副学部長（学務）・学務委員会委員長		
入試実施委員会	山 村 健 介	学生支援委員会委員長		
	吉 羽 邦 彦	入試実施委員会委員長	入試委・入試実施委	総括
	田 沼 順 一	前入試実施委員会委員長		補佐
	小 川 祐 司			
研究科学務委員会	山 村 健 介			オブザーバー
	井 上 誠	副学部長		総括
	照 沼 美 穂	副学部長・副研究科長		
	泉 健 次			学生支援
国費優先配置特別プログラム運営委員会	濃 野 要			
	石 田 陽 子			オブザーバー（留学生支援）
	前 田 健 康	学部長		
	照 沼 美 穂	副学部長・副研究科長		
施設環境整備委員会	井 上 誠	副学部長		
	大 峡 淳	学部長補佐		
	小 川 祐 司			
	石 田 陽 子			
共通施設専門委員会	寺 尾 豊	副学部長	遺伝子組換え実験安全委・施設整備専門委	総括
	大 峡 淳		動物実験倫理委員会	
	泉 健 次			
	高 橋 直 紀			
部局環境安全衛生管理室	加 来 賢 一		総合博物館検討専門委	
	堀 一 浩			
	多部田 康 一	副病院長		
	土 門 久 哲			
部局CSIRT（情報セキュリティ担当者会議）	高 橋 直 紀			
	前 田 健 康	学部長		役職指定
	竹 原 祥 子			環境安全管理担当者
	鈴 木 香 織			衛生管理者
部局CSIRT（情報セキュリティ担当者会議）	丸 山 俊			
	前 田 健 康	部局CSIRT責任者		
	西 山 秀 昌	部局CSIRTリーダー	情報基盤センター運営委	総括
	黒 川 孝 一	部局CSIRT副リーダー		
図書館委員会	丹 原 惇	部局CSIRT副リーダー		
	須 田 大 亮	部局CSIRT副リーダー		
	清 野 暁	部局情報セキュリティ事務担当者		
	田 沼 順 一		附属図書館委	
国際交流委員会	土 門 久 哲		附属図書館委	
	吉 羽 邦 彦			
	照 沼 美 穂	副学部長・副研究科長	国際交流委員会専門委	
	井 上 誠	副学部長		
広報委員会	大 峡 淳	学部長補佐		
	小 川 祐 司			
	泉 健 次			
	前 川 知 樹			
広報委員会	高 橋 直 紀			
	石 田 陽 子	オブザーバー		
	寺 尾 豊	副学部長		総括 ◎歯学部ニュース専門委
	ステガロ・ロクサーナ			◎広報専門委（学部）
公開講座実施委	吉 羽 邦 彦			◎広報専門委（研究科）
	黒 川 孝 一			口腔生命福祉学科
	丹 原 惇			◎学部広報web専門委
	堀 一 浩		公開講座実施委	◎

委 員 会 名	氏 名	職 名	対応する全学委員会	備 考
歯学部広報委員会 Web専門委員会	寺 尾 豊	副学部長		総括
	黒 川 孝 一			
	竹 中 彰 治			
	米 澤 大 輔			
	丹 原 惇			
	齋 藤 直 朗			
歯学部ニュース専門委員会	寺 尾 豊	副学部長		他の委員は准講義、助教層からローテーションで選出
広報専門委員会	寺 尾 豊	副学部長		学部
	スガコウ・ロクサーナ			学部
	吉 羽 邦 彦			研究科
歯学部公開講座委員会	堀 一 浩		公開講座実施委	
プロジェクト研究委員会	井 上 誠	副学部長		
	照 沼 美 穂	副学部長・副研究科長		
	大 峽 淳	学部長補佐		
	野 杓 由一郎			
	泉 健 次			
	富 原 圭			
	岡 本 圭一郎			
	前 川 知 樹			
臨床系実習室管理委員会	小 野 高 裕	委員長		共同技工室、実習準備室
	吉 羽 永 子			臨床基礎実習室、臨床技能評価室、臨床示説室
	小 林 哲 夫			臨床基礎実習室
	魚 島 勝 美			臨床基礎技能実習室
	加 来 賢			臨床技能自習室
	藤 井 規 孝			臨床実習技工室
	黒 川 孝 一			歯科行動科学相互実習室
人事評価委員会	前 田 健 康	系列長		
	山 村 健 介	基礎系の教授		任期 R4.4.1～R6.3.31
	林 孝 文	臨床系の教授		任期 R4.4.1～R6.3.31
	丹 原 惇	准教授、講師及び助教のうちから2人		任期 R4.4.1～R6.3.31
	竹 中 彰 治			任期 R4.4.1～R6.3.31
FD委員会	秋 葉 陽 介	委員長		
	吉 羽 永 子			
	新 美 奏 恵			
	真 柄 仁			
	大 川 純 平			
	佐 藤 圭 祐			
	川 崎 真依子			
	佐 藤 拓 実			
	前 田 健 康	顧問		
	小 野 和 宏	オブザーバー		
	井 上 誠	オブザーバー		
女性研究者登用委員会	前 田 健 康	学部長		
	照 沼 美 穂	副学部長・副研究科長		
	寺 尾 豊	副学部長		
	依 田 浩 子			R3 開花プラン支援採択者
	吉 羽 永 子			R3 開花プラン支援採択者
	山 田 友里恵			R3 開花プラン支援採択者

◎は下部組織を立ち上げる必要のある委員

《歯学部各種委員会》



歯学部を支える方々

4年目を迎えて

歯学部事務室総務係 鈴木 香 織

歯学部総務係の鈴木と申します。平成24年4月に五十嵐キャンパスで学務係に採用となり、旭町キャンパスで庶務を経験後、再び五十嵐キャンパスでの広報室勤務を経て平成31年4月1日に歯学部事務室へ参りました。（今となっては懐かしい、新元号発表のニュースを異動初日に歯学部事務室で見たことをよく覚えています。）その後、令和2年1月から産休・育休を取得、昨年4月から復帰しまして現在に至ります。時が経つのは早いもので、歯学部勤務も4年目となりました。

現在の業務としましては、教職員の採用などの異動に関することや歯学部ウェブサイトの更新等、主に学部内の人事関係と広報関係を担当しております。また、今年度は職場の巡視も担当し、毎週各棟へお邪魔しています。

業務柄、先生方にはどうしても様々な書類の提出などのご面倒をお願いすることが多くありますが、教育研究診療等でお忙しい中でも素早いレスポンスをいただくなど大変ご協力をいただいております。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。特に人事関係ではややこしいものが多く心苦しい限りですが、できるだけわかりやすい説明と負担の少ない形をお願いすることを心がけて行っております。

人事・広報その他庶務関係でご不明な点等ございましたら、どうかお気軽にお声がけください。

まだまだ至らぬ点もございますが、より良いサポートができるよう引き続き精進してまいりたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



事務室での日常業務の様子

「学務係として目指すもの」

歯学部事務室学務係 池田 恵美

こんにちは。歯学部学務係の池田と申します。令和3年4月に歯学部学務係に配属となり、2年目を迎えました。配属となったばかりの頃は、普段聞き慣れないような専門用語などに戸惑うこともありましたが、周囲の方々のお力添えをいただき今ではすっかり慣れることができました。

現在は大学院と留学生関係全般、学部入試と幅広く業務を担当させていただいております。そのような業務を行うなかで日々感じているのは、やはり学生の皆さんとの距離の「近さ」です。その距離の「近さ」を活かして、学生の皆さんがより良い学生生活を送るためのサポートを学務係としてしっかり行っていきたいと考えながら、日々の業務に励んでいるところです。

さて、これは私事にはなりますが最近はサッカーアルビレックス新潟に熱を上げております。歯学部の先生方、学生の皆さんの中にもサポーターの方がいらっしゃるのではないのでしょうか。後半戦も勝利を重ね、ぜひとも今年こそJ1昇格を決めてほしいですね！

最後になりますが、何か困ったことがあればいつでも学務係へ相談にお越しください。まだまだ力不足のところもあるかもしれませんが、気軽に相談しやすい温かい雰囲気作りを心掛け、皆様に頼られる学務係を目指していきますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



令和3年度学位記交付式

編集後記

まず初めに、執筆にご協力頂いた方々に深く御礼申し上げます。また、学生の皆さんは、中間試験もありお忙しいにも関わらずご協力いただきありがとうございました。学生のうちは、歯学部ニュースが届いたとしても目を通すことは少ないかもしれませんが、学内でどのような研究が行われているかなど、卒後の進路に役に立つ内容が載っています。様々な情報が集まっている歯学部ニュースですので、学生のうちから目を通し、将来の進路選択の一助としていただければ幸いです。

予防歯科学分野 高 昇将

学生の頃より読み続けてきた歯学部ニュースの制作に携わり、当時の様々なことがを思い出され、懐かしく感慨深い気持ちになりました。ご多忙の中、執筆にご協力いただいた先生方、学生さん方に心から感謝申し上げます。学生さんには、歯学部ニュースを書いたことも良い思い出にいただけるのではないかと考えております。誠にありがとうございました。

顎口腔インプラント治療部 高嶋 真樹子

初めに、お忙しい中、原稿執筆にご協力いただきました皆様に感謝を申し上げます。いままでは、医局にある歯学部ニュースをパラパラと眺める程度でしたが、編集に携わらせていただき、作成のために多くの方が尽力していることを実感いたしました。今後はきちんと読んでいこうと思います。この度は編集委員として貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。今後も本誌が歯学部の活動を内外に発信する広報誌として、皆様のお役に立てることを願っております。

組織再建口腔外科分野 佐久間 英伸

この度はお忙しい中、原稿執筆に快くご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。歯学部ニュースの編集に携わらせていただくのは初めてでしたが、作成のために多くの方が尽力していることを実感いたしました。編集委員として貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。今後も本誌が歯学部の活動を内外に発信する広報誌として、同窓の先生方のお役に立てることを願っております。

摂食嚥下リハビリテーション学分野 吉原 翠

歯学部ニュース141号の編集および取りまとめ担当をさせていただきました。原稿執筆にご協力いただきました先生方、学生さん、事務方のみなさんに感謝申し上げます。歯学部ニュースは、長引くコロナ禍において人との交流が少なくなっている昨今に、新潟大学歯学部関係者の日頃の生活や人となりを知ることのできる最良な媒体ではないかと思います。大学においても私生活においても厳しい状況はまだまだ続くとは思いますが、読者の皆様が健康で過ごされることを祈念しております。

高度口腔機能教育研究センター 前川 知樹

表紙・裏表紙写真の説明

表紙の撮影データ

撮 影 地：胎内市（長池憩いの森公園）

撮 影 日：2022年4月

使用機材：OLYMPUS E-M5 Mark II/M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PRO／絞り：F5.6・シャッター速度：1,000分の1秒

裏表紙の撮影データ

撮 影 地：新潟市江南区（北方文化博物館）

撮 影 日：2022年5月

使用機材：SONY α7C/SIGMA 24mm F3.5 DG DN Contemporary／絞り：F5.6・シャッター速度：100分の1秒

コメント：今号では新潟の春～初夏の風景でまとめてみました。表紙は60種類・80万本が咲き誇るとされている胎内チューリップフェスティバルでのひとコマです。チューリップの切り花の出荷量では新潟県は全国第一位であり、県の花や新潟市・胎内市の花として制定されています。色鮮やかに列をなして並んだ手前のチューリップ畑と奥に広がる菜の花畑を題材に、望遠レンズの圧縮効果と前ボケを使って奥行き感のある花絨毯を構成してみました。ひょっこりと顔を覗かせている色の異なる一本がアクセントになっていると思います。裏表紙は新潟市江南区の北方文化博物館の敷地内にある、樹齢約150年の藤棚です。2021年1月の豪雪でその8割ほどが倒壊しましたが、その後の修復により奇跡的な復活を遂げて今年も艶やかで甘い香りの花房を愛でることができました。藤棚を真下から見上げるように明るい空を背景とした逆光状態として、花の上品な薄紫と葉の明るい緑の淡く透明感のある色調が残るように35 mmフルサイズセンサーのカメラを使って、鬼も近寄れない（かもしれない）ほどの藤の花の美しさを表現してみました。

本誌中の写真の使用機材

ボ デ ィ：OLYMPUS PEN-F, OLYMPUS E-M5 Mark II, SONY α7C

レ ン ズ：M.ZUIKO DIGITAL ED 12-45mm F4.0 PRO, M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PRO, SIGMA 24mm F3.5 DG DN Contemporary

撮 影 者：林 孝文

歯学部ニュース

令和4年度第1号（通算141号）

発 行 日	令和4年11月1日
発 行 者	新潟大学歯学部広報委員会
編集責任者	前川 知樹、寺尾 豊
編 集 委 員	高 昇将、高嶋真樹子 佐久間英伸、吉原 翠
印 刷 所	(株)ウィザップ



リサイクル適性 **A**

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。